

# 經 營 学 部

氏名 戸塚 茂雄 (TOTSUKA shigeo)

所属 経営学部経営学科

職名 教授、学部長

生年月日 1947 年 9 月 20 日

[履歴]

[学歴]

1971 年 3 月 専修大学商学部商業学科卒業

1974 年 3 月 専修大学大学院経済学研究科修士課程修了 (理論経済学専攻)

1980 年 3 月 専修大学大学院経済学研究科博士課程修了 (理論経済学専攻)

[学位]

経済学修士

[職歴]

1984 年 専修大学附属高校非常勤講師

1985 年 東京女子学院高校非常勤講師

1987 年 青森大学経営学部専任講師

1983 年 青森大学経営学部助教授

1989 年 青森大学経営学部教授

2012 年 青森大学経営学部長

[所属学会]

経済理論学会、経済学史学会、経済統計学会、東北経済学会

[教育活動]

[担当科目]

経済学、現代日本経済論Ⅰ、現代日本経済論Ⅱ、専門演習(3 年)、専門演習(4 年)

[卒業論文指導]

6 名

[ゼミ指導]

16 名

[教育指導に関する特記事項]

卒業論文指導に時間をかけている。テーマ設定から論文の作成方法まで懇切に指導している。

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) 過剰富裕化と過剰労働時間

(2) 日本資本主義の史的分析和構造分析

(3) 経済分析和統計

[著書、論文、学会発表]

2006 年

11 月 論文「過剰富裕化論とその周辺」 『専修総合科学』 第 14 号、専修大学緑鳳学会

2007 年

6 月 著書『過剰富裕化と過剰労働時間』 開成出版

11 月 論文「過剰富裕化と過剰労働時間」 『専修総合科学』 第 15 号、専修大学緑鳳学会

2008 年

3月 論文「過剰富裕化論・補遺」『研究紀要』第30巻第3号、青森大学・青森短期大学学術研究会

9月 学会発表「過剰富裕化論と統計指標」経済統計学会全国研究大会（専修大学神田校舎）

2009年

2月 論文「素描・過剰富裕化論と環境倫理学」『研究紀要』第31巻第3号、青森大学・青森短期大学学術研究会

4月 著書『過剰富裕化と過剰労働時間 第2版』開成出版

2010年

7月 対話「社会科学を語る（続）」馬場宏二と。『研究紀要』第33巻第1号

2011年

11月 書評 馬場宏二『宇野理論とアメリカ資本主義』『研究紀要』第34巻第2号

2012年

6月16日 研究発表「過剰富裕化論の学説史的考察」馬場宏二追悼研究集会、東京大学社会科学研究所

7月 論文「過剰富裕化論の学説史的考察—形成、展開、意義」『研究紀要』第35巻第1号

2014年

2月 論文「『過剰富裕化と過剰労働時間 第2版』補遺」『研究紀要』第36巻第3号

[研究費の取得状況]

[その他の活動]

[学内各種委員]

教務委員長（2006年～2008年）、研究紀要編集長（2009年）

入試委員長（2009年）、資格審査委員（2009年）



氏名 櫛田 豊 (YUTAKA Kushida)

所属 経営学部経営学科

職名 教授

生年月日 1954 年 4 月 13 日

[履歴]

[学歴]

1978 年 3 月 早稲田大学商学部卒業

1981 年 3 月 早稲田大学商学研究科博士前期課程 修了

1990 年 3 月 早稲田大学商学研究科博士後期課程、満期退学

[学位]

経済学博士、商学修士

[職歴]

1991 年 4 月 横浜国立大学工学部、非常勤講師

[所属学会]

経済理論学会、社会政策学会、日本協同組合学会

[教育活動]

[担当科目] 経営管理論、スポーツ経営学、スポーツマーケティング、スポーツ産業論、科学方法論演習、3 年演習、4 年演習

[卒業研究指導]

2009 年卒業研究： 13 名

[ゼミ指導]

2009 年 3 年ゼミ指導： 15 名

[教育指導に関する特記事項]

- 1, ゼミに中国人留学生が数名おり、日中学生交流を深める一環として、中国の最近の経済・文化事情を報告させ、意見交換やディスカッションを行っている。
- 2, 経済学への数学利用とその成果をゼミ生に認識してもらうために、OR の専門家にゼミに参加していただき、産業連関表、投入産出分析の基本的な仕組みを解説するとともに、ディスカッションを行っている。

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) サービス経済の理論的分析

(2) サービス経済の実証的分析

[著書、論文、総説]

「社会的再生産とサービス部門」 日本大学『経済集志』第 77 巻第 4 号、2008、1 月

[学内各種委員]

学生委員、自己点検委員、学内学術研究会委員



氏名 赤坂 道俊 (AKASAKA Michitoshi)

所属 経営学部経営学科

職名 教授

生年月日 1950 年 5 月 30 日

[履歴]

[学歴]

1988 年 3 月 明治大学大学院経営学研究科博士後期課程単位取得、満期退学

[学位]

商学修士

[職歴]

1988 年 4 月 青森中央短期大学経営情報学科専任講師

1991 年 4 月 八戸大学商学部専任講師

1992 年 4 月 同大学同学部助教授

1998 年 4 月 同大学同学部教授

2005 年 4 月 青森大学経営学部教授

[所属学会]

日本経営学会、経営史学会、経済理論学会

[教育活動]

[担当科目]

経営学総論Ⅰ、同Ⅱ、経営史Ⅰ、同Ⅱ、経営組織論Ⅰ、同Ⅱ、3年専門演習、4年専門演習(以上学部)環境経営論(大学院。2012年度まで)

[卒業研究指導]

2008年卒業研究:8名、2009年卒業研究:9名、2010年卒業研究:9名、2011年卒業研究:9名、2012年卒業研究:10名

[ゼミ指導]

2008年ゼミ指導:3年7名、4年9名。2009年ゼミ指導:3年11名、4年9名、2010年ゼミ指導:3年9名、4年16名、2011年ゼミ指導:3年7名、4年11名、2012年ゼミ指導:3年9名、4年10名、2013年ゼミ指導:3年6名、4年9名

[教育指導に関する特記事項]

1,大学院進学者のために、原書講読の補講、専門科目の補講を行った。

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) イギリス多国籍企業経営史

(2) イギリス帝国経済史

(3) 地域経済研究

[著書、論文、総説]

1, 赤坂道俊「グローバル化とイギリス多国籍企業のプレゼンス」『青森大学学術研究会法』Vol.28、No.2、2005.11

2, 赤坂道俊「第二次大戦後ユニリーバの戦略的 M&A と経営統合」『研究紀要』第 31 巻 3 号、2009.2

3, 赤坂道俊「1980 年代中葉、ユニリーバのコア・ビジネス戦略の展開」『研究紀要』第 35 巻 3 号、2013.2

[論説]

1. 赤坂道俊「国際分業と経営戦略」「あおもり経済未知知るべ」〈50〉、『東奥日報』2013

年 5 月 4 日

2. 赤坂道俊「小売業二極化と経営革新」「あおもり経済未知するべ」〈55〉、『東奥日報』

2013 年 6 月 8 日

3. 赤坂道俊「非正規雇用の課題」「あおもり経済未知するべ」〈60〉、『東奥日報』2013 年 7 月 13 日

4. 赤坂道俊「八食センターの活力」「あおもり経済未知するべ」〈65〉、『東奥日報』2013 年 8 月 17 日

5. 赤坂道俊「原子力と地域振興」「あおもり経済未知するべ」〈70〉、『東奥日報』2013 年 9 月 21 日

6. 赤坂道俊「TPP 参加と日本農業」「あおもり経済未知するべ」〈75〉、『東奥日報』2013 年 10 月 26 日

7. 赤坂道俊「コーヒーチェーンの躍進」「あおもり経済未知するべ」〈80〉、『東奥日報』2013

年 11 月 30 日

8. 赤坂道俊「TPP 加盟は青森県農業に深刻な影響を及ぼす」『りんごニュース』（青森県りんご協会）、2014 年 1 月 1 日。

9. 赤坂道俊「中心街活性化の鍵」「あおもり経済未知するべ」〈85〉、『東奥日報』2014 年 1 月 11 日

10. 赤坂道俊「食の外部への依存」「あおもり経済未知するべ」〈90〉、『東奥日報』2014 年 2 月 15 日

11. 赤坂道俊「攻勢続く 100 円ショップ」「あおもり経済未知するべ」〈95〉、『東奥日報』2014 年 3 月 22 日

【学会発表】

赤坂道俊「1980 年代中葉、ユニリーバのコア・ビジネス戦略と M&A の展開」、第三回『経営史学会東北ワークショップ』2010 年 9 月 10 日。

【その他の活動】

【公開講座、講演、セミナー】

1. 「新しい小売業の成長と経営革新」, 青森アドバンス・クラブ、2007.9

2. 「新しい小売業の成長と流通業の変化」、カントリー・ジェントルマン・クラブ、2007.11

3. 「経済のグローバル化と私たちの暮らし」オープンカレッジ市民大学、

2008.11

4. 講演「新しい小売業の成長と経営革新」まちなかキャンパス／青森大学公開講座、2013.9

5. 講演「TPP と行政書士（士業）～TPP は復興に役立つか？」宮城県行政書士界石巻支部。石巻市「大もりや 3 階リボンホール」、平成 26 年 1 月 24 日。

6. 講演「TPP が本県農業に与える影響」青森県りんご協会、平成 26 年冬期りんご講座、2014.1.31、於青森県りんご協会講堂。

【学内各種委員】

2006 年 教務委員、学生募集連絡会委員、入試委員

2007 年 経営学科長、学部入試委員長、留学生支援委員長、資格審査委員

2008 年 経営学科長、学部入試委員長 IT 検討会委員、留学生支援委員長、資格審査委員

2009 年 学部教務委員長、全学教務委員、IT 検討会委員

2010 年 学部教務委員長、全学教務委員、IT 検討会委員

2011 年 学部教務委員長、全学教務委員、IT 検討会委員



2012 年 学部教務委員、学生募集連絡会委員、

2013 年 学部就職委員、全学就職委員、地域貢献センター委員、留学生就職支援班  
[学外各種委員]

青森地方最低賃金審議会委員・会長代理（2008 年 4 月～現在に至る）

独立行政法人 雇用・能力開発機構運営協議会会長（2008 年 4～2010 年 3 月）

青森市ものづくり推進会議委員（2008 年 4～2010 年 3 月）

七大学連携事業（コンソーシアム青森）教育部会委員（2010 年 4～2012 年 3 月）

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会委員、会長（2011 年 10 月～  
現在に至る）

青森県地域連携型企業家創出事業実行委員会委員（2013 年 4 月～）



氏名 五十嵐則夫 (IGARASHI Norio)

所属 経営学部経営学科

職名 教授

生年月日 1946 年 12 月 23 日

【履歴】

【学歴】

1981 年 3 月 青山学院大学大学院経済学研究科 経済政策専攻博士課程修了

【学位】

経済学修士

【職歴】

1971 年 4 月 民間企業入社

1975 年 3 月 民間企業退社

1981 年 4 月 日本電子専門学校講師

1991 年 3 月 日本電子専門学校退職

1991 年 4 月 青森大学 専任講師 経営学部経営学科

1992 年 2 月 青森大学 助教授 経営学部経営学科

2002 年 4 月 青森大学 教授 経営学部経営学科

【所属学会】

ロシア・東欧学会、比較経営学会、日本経営学会

【教育活動】

【担当科目】 経済原論、工業経営論、経営分析論、演習

【卒業研究指導】

2012 年卒業研究： 11 名

2013 年卒業研究： 17 名

2014 年度卒業研究： 14 名

【ゼミ指導】

2014 年度： 37 名

【教育指導に関する特記事項】

1. 分かり易い講義を心がける。特に、板書は丁寧に行う。
2. 毎回、講義の開始前に、前回の講義の復習を行うことにしている。
3. 演習ではゼミ生を小集団に分け、その小集団毎にレポート作成及びその発表を行うように指導している。
4. レポートは前期は手書きを認めるが、後期にはワープロにて書くように指導する。

【研究活動】

【研究テーマ】

- (1) ロシアの品質管理法 (及び、ロシアでの科学的管理法)
- (2) 科学的管理について

【著書、論文、総説】

1. 「ロシア連邦での組織体」、青森大学・青森短期大学学術研究会、研究紀要、2006 年 11 月、Vol.29-2 単著
2. 「ロシア連邦での品質改善策の影響」、青森大学・青森短期大学学術研究会、研

究紀要、2009年2月、Vol.31-3、青森大学創立40周年 青森大学経営学部開設40周年記念特集号、単著

3. 「工場管理機構としての内部請負制度の普及と消滅---日米の比較---」、青森大学・青森短期大学学術研究会、研究紀要、2010年2月、Vol.32-3、単著

4. 「日本での科学的管理の変容」、青森大学・青森短期大学学術研究会、研究紀要、2011年7月、Vol.34-1、単著

5. 「科学的管理法の普及」、青森大学・青森短期大学学術研究会、研究紀要、2012年11月、Vol.35-2、単著

6. 「経営家族主義と科学的管理」、青森大学・青森短期大学学術研究会、研究紀要、2014年2月、Vol.36-3、単著

#### 【研究費の取得状況】

#### 【その他の活動】

##### 【公開講座、講演、セミナー】

1. オープンキャンパス 模擬授業 2012年6月16日
2. 青森山田高等学校 大学見学会 2012年7月18日
3. 青森山田高等学校 大学説明会 2012年12月12日

#### 【学内各種委員】

1. 学術研究会
2. 図書委員会

氏名 石川 祥三 (ISHIKAWA, Shozo)

所属 経営学部経営学科

職名 教授

生年月日 1955 年 7 月 25 日

[履 歴]

[学 歴]

1979 年 3 月 山形大学工学部精密工学科卒業

[学 位]

工学士 1979 年 3 月 山形大学

[職 歴]

1979 年 4 月 山洋電気(株) 入社

1984 年 12 月 伊藤工業(株) 入社

1990 年 4 月 青森短期大学 助手

1992 年 4 月 青森大学 助手 工学部情報システム工学科

1997 年 4 月 青森大学 講師 経営学部産業学科

2004 年 4 月 青森大学 助教授 経営学部ビジネス情報学科

2011 年 4 月 青森大学 教授 経営学部経営学科

[所属学会]

日本情報処理学会 日本情報経営学会

[教育活動]

[担当科目]

数的処理、情報活用論 I、基本情報処理 I、プログラミング I、II、情報の集計・分析

[教育指導に関する特記事項]

平成 26 年度の『IT パスポート試験』合格者は 1 名。最近 5 年間 (H22~H26) における合格実績は 11 名である。

[研究活動]

[研究テーマ]

戦略的イノベーションによる技術経営に関する研究

[研究発表]

[紀要、論文、各種報告書]

石川祥三 「競争的優位実現の技術力とイノベーション」 研究紀要 (青森大・青森短大) 33 巻 3 号 (2011 年 2 月) 1-18 頁

石川祥三 「技術経営 (MOT) における持続的競争力」 研究紀要 (青森大・青森短大) 35 巻 3 号 (2013 年 2 月) 17-34 頁

石川祥三 「異業種企業における競争構造の構築」 研究紀要 (青森大) 36 巻 3 号 (2014 年 2 月) 299-314 頁

[学内各種委員]

学生募集委員会 (平成 25 年度~)

企画・運営委員会 (平成 14 年度~)

ホームページ委員会 (平成 14 年度~)

保守・点検委員会 (平成 15 年度~)

[出張講義]

テーマ：面白インターネット (於：青森リバーテクノ 2002 年 8 月)



[計算機運用]

教育用 e-ラーニングサーバの運用・保守担当

氏名 井上 隆 (INOUE Takashi)

所属 経営学部経営学科

職名 教授

生年月日 1949年11月25日

## [履歴]

### [学歴]

1974年3月 法政大学経済学部経済学科卒業

1976年3月 早稲田大学大学院商学研究科商学専攻修士課程修了、商学修士

1984年3月 法政大学大学院社会科学研究科経済学専攻博士後期課程満期退学

### [職歴]

1976年4月 東京家政大学付属高等学校非常勤講師（～1980年3月）

1983年4月 法政大学経済学部非常勤講師（～1989年3月）

1987年4月 駒澤大学経済学部非常勤講師（～1988年3月）

1989年4月 青森大学経営学部助教授、1997年4月 同教授

1998年4月 経営学科長（～2002年3月）

2002年4月 経営学部長（～2012年3月）、2013年4月 同教授

### [所属学会・団体]

経済理論学会、東北経済学会、東北都市学会、NPO法人ひろだいらサーチ

## [教育活動]

### [担当科目]

地域経済論Ⅰ・Ⅱ、外書講読Ⅰ・Ⅱ、キャリア開発(分担)、専門演習(3～4年)

### [ゼミ指導]

2013年度 20名、2014年度 20名、2015年度 18名

### [教育指導に関する特記事項]

- (1)専門演習(3年)では、専門書(日本経済論)輪読と並行して、随時、『会社情報』の読み方指導や会社・工場見学などを通じて就職意識を醸成し、一定の成果をあげてきた。
- (2)専門演習では、学生が企業経営の実際に直接接触する機会を増やすべく様々な取り組みを行っている。平成24年度は、青森市中心市街地活性化協議会「中心商店街にぎわい創出事業」・「学生による商店街コンセプト提案調査研究事業」に4年ゼミ生を参画させ成果を上げた。当該事業は平成25年度も継続した。
- (3)随時、学外講師による「時事問題学習会」を企画・実施し、学習機会の多様化を図っている。平成24年度は、財務省大臣官房総合政策課長(西田安範氏)を招聘し、「社会保障と税の一体改革」に関する講演会・座談会を開催し好評を得た。

## [研究活動]

### [研究テーマ]

- (1)国土開発政策の変遷と諸問題
- (2)地方圏経済—衰退のメカニズムと再生可能性—

### [著書、論文、研究ノート、評論・書評、調査報告書等](過去5ヶ年度分)

- 1.「牛乳流通の社会貢献的役割とブランド価値についての一考察」弘前大・佐々木純一郎、竹原公、青森大学・井上隆、フードシステム学会大会《東京農業大学》報告要旨、15.3.31
- 2.「大震災時における八戸圏域の企業行動(2)」『青森県保険医新聞』No.639, 2014.4.1.
- 3.(単著)『屋台村的空間‘ザ・あおもり’の創出—新たな食等の提供業態調査報告書—』、



青森商工会議所発行、2014.3.31

4. 「大震災時における八戸圏域の企業行動(1)」『青森県保険医新聞』No.638, 2014.3.1.
5. 「東日本大震災時における企業行動と復旧・復興過程」, 青森大学『研究紀要』第36巻第3号(通巻118号), pp19-39, 2014.2.1.
6. 「コンパクト化見通す目－佐々木誠造に聞く‘都市経営’－」『東奥日報』2014.1.9.  
(書評: 佐々木誠造著『まちづくり・人づくり・意識づくり』2013.10.泰斗舎刊)
7. 「連携深化の必要性説く」『東奥日報』2013.8.21.  
(書評: 佐々木純一郎編著『地域経営の課題解決』2013.2. 同友館刊)
8. (共著)『東日本大震災時における八戸圏域企業の行動』pp3-30. 分担執筆.  
NPO法人ひろだいリサーチ編集、あおもり県民政策ネットワーク発行. 2013.5.
9. 「複雑な仕組み平明に-福士隆三著『初心者のための経済読本』北の街社、書評-」  
『東奥日報』2010.6.22.
10. 「青森県経済の実態と今後の振興方向-『青森県の経済産業事情』北の街社、書評-」  
青森大学『研究紀要』Vol.32.No.2.

[学会発表・学会活動など]

1. 『経済志林』誌上座談会、テーマ: 人と学問. 2010.9.19. 於ボアソナードタワー、  
参加者: 増田壽男(法政大総長)、山本健児(九州大大学院)、菅井益郎(國學院大)、  
柿崎繁(明治大)、井上隆(青森大)、小澤光利(法政大).

[外部研究費等取得状況]

1. 助成機関: 一般社団法人 日本酪農乳業協会(Jミルク)、募集事業: 平成26年度「乳の社会文化」学術研究公募、受託者: 佐々木純一郎(弘大)、井上隆(青大)、谷口清和(青銀地域社会研究所)、竹ヶ原公(弘大院)、**研究課題: 「函館酪農公社」移動販売車に見る買い物過疎地域への社会貢献的役割の研究、委託金額: 1,000千円、調査・研究期間: 平成26年4月～平成27年3月**
2. 助成機関: 青森県商工労働部、調査研究補助事業: 青森県むらおこし総合活性化事業、  
受託者: 青森商工会議所・新たな食等提供業態創造調査研究会(座長: 井上隆)、調査研究事業名:  
新たな食等提供業態創造調査・基本構想策定(執筆担当: 井上隆)、委託金額: 1,540千円、
3. 助成機関: あおもり県民政策ネットワーク(青森県企画政策部)、委託事業: 地域政策研究、  
受託者: NPO法人ひろだいリサーチ、代表研究者: 佐々木純一郎(弘大大学院)、井上隆(青森大)  
調査研究課題: 「東日本大震災における八戸圏域の企業行動調査」、2012年度、委託金額: 400、000円、
4. 「新七戸物件・商業環境調査および販売可能額推計」、受託金額: 100,000円、  
イオンリテール株式会社開発本部 東北開発部、2010年3月

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー、シンポジウムなど](2007～)

- ・講演「新たな食等の提供業態創造調査事業および中心商店街賑わい創出事業」、  
青森市中心市街地活性化協議会(商工会議所)、2014.5.
- ・コーディネーター、県高規格道路建設促進期成会・上北横断道路事業促進会議共催「上北道路開通と地域を考えるシンポジウム」、六戸町メイプルホール、2013.2.
- ・講演「東日本大震災における八戸圏域企業の行動」、八戸グランドホテル、  
あおもり県民政策ネットワーク、平成24年度・調査研究報告会、2013.2.
- ・コーディネーター、青森市主催みなとまちづくり市民フォーラム、ワラッセ、  
パネルディスカッション「ウォーターフロント活性化とは」2011.11.
- ・講演「都市再生・街づくりの課題と方法」、青森大学後援会宮城県支部、2011.7.
- ・座長、東北地方整備局「国道四号七戸バイパス開通」座談会、七戸柏葉館、2011.1.  
参加: 井上隆、小又勉七戸町長、米内山正義商工会長、久保田一青森事務所長



- ・講演「新幹線開業が地域社会に与える影響について」、オープンカレッジ、2010.11.
- ・講演「新幹線開業と地域社会の変容」、野辺地町教育委員会「野辺地生涯学習大学」野辺地町立図書館、2010.10.
- ・講演「新幹線開業と地域社会の変容」、修養会、十和田おいらせ荘、2010.9.
- ・講演「商業統計と地域商業政策」、プラス青い森、2010.5.  
青森県統計分析課・平成22年度地方統計職員業務研修基礎研修会、
- ・コーディネーター、青森県民政策ネット・研究成果発表会、グランドホテル、2010.3.
- ・基調講演「モデルタウン構想と街づくり」、青森県・青森市共催「青い森セントラルパーク低炭素型モデルタウン構想シンポジウム」、ラプラス青い森、2009.11.
- ・講演「東北新幹線新青森駅開業とコンパクトシティの今後」、スピリッツネットワーク研修会、青森市アウガ、2009.9.
- ・講演「新幹線開業と地域社会の変容」、平成21年度・十和田市民大学公開講座、十和田市民文化センター、2009.8.
- ・コーディネーター、国交省青森河川国道事務所・青森県上北県民局・東北風景街道協議会共催フォーラム「上北の街道づくり」、十和田富士屋グランドホール、2009.3.
- ・講演「新幹線開業と地域社会の変容」、平成20年度 青森県産業教育振興会 東青地区協議会 生徒研究発表大会、青森市文化会館、2008.12.
- ・講演「財政再建 - 地方政府と国民へのしわ寄せの構図 -」、オープンカレッジ、2008.8.
- ・講演「県民政策ネットの意義と役割」、政策セミナー、弘前文化センター、2007.11.
- ・基調講演「地域連携・公民連携によるまちづくりの可能性と問題点」、青森県地域自治体問題研究所主催、第7回自治体・地域づくりセミナー、十和田市、2007.10.
- ・講演「上十三地域における広域連携の成果と課題」、青森県上北地域県民局地域連携部・上北の元気結集協議会、十和田市青森県合同庁舎、2007.8.
- ・コーディネーター、青森県民政策ネット・研究成果発表会、国際ホテル、2007.2.

[学外各種委員など] (過去7過年度分、2008～2014年度、任期終了分を含む)

- ・財務省東北財務局 財務行政モニター
- ・法務省青森地方法務局 事務評価委員会 委員長
- ・国交省東北地方整備局 上十三地域広域連携塾 塾長
- ・国交省東北地方整備局 青森の道づくり懇談会 座長
- ・国交省東北地方整備局 雪みち懇談会 座長
- ・国交省東北地方整備局 とうほく街道会議 委員
- ・国交省東北地方整備局・青森県県土整備部 道路交通環境安全推進連絡会議 委員
- ・青森県健康福祉部 水道危機管理検討協議会 委員
- ・青森県健康福祉部 公衆浴場入浴料金協議会 委員長
- ・青森県健康福祉部 地域医療再生計画(第三次医療圏)有識者会議 委員
- ・青森県健康福祉部 地域医療再生計画地域選定委員会 委員
- ・青森県健康福祉部 母子家庭等自立支援推進計画検討委員会 委員長
- ・青森県環境生活部 青森県男女共同参画アドバイザー
- ・青森県県土整備部 県営住宅等指定管理者審査会 委員
- ・青森県県土整備部 国道103号青樺山バイパス事業評価検討委員会 座長
- ・青森県県土整備部・青森市都市整備部 青い森セントラルパークを考える会 会長
- ・青森県県土整備部・青森市都市整備部  
青い森セントラルパーク低炭素型モデルタウン事業審査委員会 委員
- ・青森県企画政策部 あおもり県民政策ネットワーク運営委員会 委員長
- ・青森県企画政策部 あおもり県民政策ネットワーク政策形成専門委員会 委員長
- ・青森県企画政策部 あおもり県民政策研究選考委員会 委員長

- ・青森県上北地域県民局地域連携部 上北の元気結集協議会 顧問
- ・青森県上北地域県民局地域連携部 VIEW 上北推進協議会 会長
- ・青森県上北地域県民局 上北食の健康プレミアム便商品認定審査会 会長
- ・青森市健康福祉部 青森市福祉有償運送運営協議会、会長、市庁舎(2/13)
- ・青森市 新製品開発審査会 会長
- ・青森市 総合都市交通対策協議会 会長
- ・青森市 青い森鉄道活用会議 座長
- ・青森市 中心市街地活性化協議会 副会長
- ・青森市 青森駅周辺整備推進会議 委員
- ・青森市 東北新幹線新青森駅西口立体駐車場整備事業審査委員会 副委員長
- ・青森市 ウォーターフロント活性化検討委員会 委員長
- ・青森市 みなとまちづくりミーティング 座長
- ・七戸町 東北新幹線七戸駅活用プロモーション会議 座長
- ・七戸町 東北新幹線七戸十和田駅舎デザインコンセプト調整会議 委員
- ・外ヶ浜町 ㈱津軽エコエネ、非常勤監査役
- ・青森県社会福祉協議会 福祉施設経営改善推進委員会 委員
- ・青森商工会議所 若手後継者等育成事業運営委員会 委員
- ・青森商工会議所 新たな食等の提供業態創造調査研究会、会長
- ・(一財法人)青森地域社会研究所、客員研究員
- ・東日本高速道路㈱東北支社 ハイウェイミーティング座長会議 委員
- ・RAB、ニュースリーダー、コメンテーター



氏名 江川静英 (EGAWA Shizue )

所属 経営学部

職名 教授

生年月日 1951 年 09 月 02 日

[履歴]

【学歴】

1976 年 3 月 御茶の水女子大学家政学部被服学科服飾美学専攻卒業

[学位]

家政学学士

[職歴]

1976 年 04 月 御茶の水女子大学家政学部被服学科服飾美学研究生

1978 年 03 月 研究修了 研究テーマ 近代服飾における美の意識

1978 年 10 月 青森短期大学非常勤講師

1981 年 04 月 青森大学非常勤講師

1986 年 04 月 青森大学講師

兼青森山田高校非常勤講師(調理科)(1997 年 03 月まで)

1992 年 04 月 青森大学助教授

2006 年 04 月 青森大学教授 現在まで

[所属学会]

日本中国語学会、服飾美学会、国際服飾学会 日本聞一多学会

[教育活動]

【担当科目】中国語ⅠA 中国語ⅠB 中国語ⅡA 中国語ⅡB

[ゼミ指導]

[教育指導に関する特記事項]

1. 中国語検定試験参加する学生に課外指導

2. 中国文化研究部顧問

中華料理、

中国功夫(香功)

諺から人生観を学ぶ

台湾人の信仰について

台湾人の宗教観(儒教・道教・仏教)

3. 留学生の支援

日本文化交流会の開催

お茶会に留学生を引率

外国人スピーチコンテスト開催に協力、協賛

留学生の学習、生活相談を受け持ち

[研究活動]

【研究テーマ】

1. 中国少数民族の服飾文化について

2. 台湾の信仰について

3. 中国古代民族服飾について

[著書、論文、総説]

1.E-ラーニング中国語教材再検討作成 青森大学 2006～2014 年

2.世界の民族衣装の事典(分担執筆)中国少数民族 東京堂出版 2006 年 9 月

3. 世界民族服飾事典（分担執筆）中国古代民族服飾 悠書館出版予定

[学会発表]

1. 第 22 回国際服飾学会でポスターセッション発表

「一宋代の背子について」 場所：台湾台南市 日時 2006 年 8 月

2. 中国雲南省の昆明、大理（白族）、麗江（納西族）現地調査した。20年3月  
白族についての成果を発表

3. 第 23 回国際服飾学会でポスターセッション発表

白族の服飾文化と生活環境について

場所：高山国際コンベンションセンター 日時 2008 年 8 月

4. 第 23 回国際服飾学会総会・国際理事会・開会式・閉会式に通訳担当。日本

5. 第 24 回国際服飾学会総会・国際理事会・開会式・閉会式に通訳担当。韓国

6. 第 25 回国際服飾学会総会・国際理事会・開会式・閉会式に通訳担当。台湾

[その他の活動]

1. 2013 年 2 月 2012 年度第 2 回外国語教育研究発表会

中国語 E-learning の授業について

2. 2013 年 2 月 学生を台湾の大学に訪問し、語学研修と親善交流に引率した

3. 2014 年 2 月 2013 年度第 2 回外国語教育研究発表会

海外語学研修報告(学生の感想含む)

[学内各種委員]

学生委員会

国際交流委員会

ハラスメント防止対策委員会

青森大学オープンカレッジ副所長

[学外各種委員]

1.1993 年 7 月 青森市国際交流ボランティア協会会員（現在に至る）

2.1995 年 9 月 国際ソロプチミスト青森会員（現在に至る）

2010 年 7 月 R・セクレタリー

2011 年 7 月 会長エレクト

2012 年 7 月 会長

2013 年 7 月 理事（現在に至る）

4. 2001 年 4 月から 2013 年 3 月 幸畑小学校評議員

5. 2001 年 5 月から 2012 年 5 月 財団法人 21 あおもり産業総合支援センター理事

6. 2005 年 7 月から 2014 年 3 月 青森県中華総会会長(現在に至る)

7. 2006 年 6 月から 2014 年 3 月 国際服飾学会理事(現在に至る)

8. 2012 年 7 月から 2014 年 3 月 ウイメンズ青森の会員(現在に至る)。

[地域活動]

1. 2010～2012 年 年 2 回財団法人 21 あおもり産業総合支援センター理事会に出席

2. 2010～2012 年 年 2 回幸畑小学校評議員会議に出席

3. 2010～2014 年 国際ソロプチミスト青森の役員として、国際や地域社会で女性  
と女子の生活向上の活動に参加する。(現在に至る)

4. 2010 年 7 月 サンフランシスコで開催された第 41 回国際ソロプチミスト  
アメリカ連盟大会に青森クラブ会長・デレゲートとして出席。

5. 2010 年から 2012 年毎年 9 月開催された国際ソロプチミストアメリカ日本



北リジョン研修会（クラブ役員セミナー）に出席。

6. 2012年3月11日岩手県大船渡市『東日本大震災一周年鎮魂と追悼市民のつどい』に台湾からの法師たちと参加し、御経を唱えた。

7. 2013年3月11日 森明の星中学・高校が開催した東日本大震災二周年追悼集会に参加し、共同祈願文を朗読した。

8. 2013年4月日本北リジョン大会開催に、サポーターティングクラブ会長担当。

9. 2014年4月日本北リジョン大会(札幌)に参加

#### [国際交流]

1. 2010年～2013年日華親善協会の活動に青森県華僑総会会長として参加。

2. 2010年7月 国際ソロプチミストアメリカ連盟年次大会デレゲートとして参加。

3. 2011年7月から台湾にリンゴの宣伝や観光を推進する活動に協力。(現在に至る)。

#### [その他]

1. 2010年～2014年 国際ソロプチミスト青森の会長・役員としてチャリティーコンサートを主催、奉仕・寄付活動に参加。

2. 2010年～2014年 国際交流関係、教育、ビジネス、観光ピーアールの資料や文書など多数翻訳。

氏名 小川 伸悦 (OGAWA Shinetsu)

所属 経営学部経営学科

職種 教授

生年月日 1954年6月4日

[履歴]

[学歴]

1977年3月 早稲田大学教育学部教育学科体育学専修卒業

[学位]

教育学士

[職歴]

1979年4月 青森県立八戸北高等学校教諭(1987年3月まで)

1987年4月 青森県立青森工業高等学校教諭(1998年3月まで)

1998年4月 青森県立青森高等学校教諭(2003年3月まで)

2003年4月 青森県立青森東高等学校教諭(2008年3月まで)

2008年4月 青森県立むつ工業高等学校教頭(2010年3月まで)

2010年4月 青森県立弘前実業高等学校教頭(2011年3月まで)

2011年4月 青森県立浪岡高等学校校長(2012年3月まで)

2012年4月 青森県立青森高等学校校長(2015年3月定年退職)

2015年4月 青森大学経営学部経営学科教授

[教育活動]

[担当科目]

教職概論、生徒・進路指導論、特別活動の指導法、  
保健体育科教育法Ⅰ・Ⅲ、保健体育理論、教育実習

[教育指導に関する特記事項]

アクティブラーニング(能動的学習)の手法を積極的に取り入れ、学修者の論理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。

[研究活動]

[研究テーマ]

学校教育活動における保健体育教育の在り方

[著書、論文、総説]

『図説・現代高等保健』(共著)大修館書店

[学内各種委員]

教職課程委員会



氏名 中田吉光 (Nakata Yoshimitsu)

所属 経営学部経営学科

職種 教授

生年月日 1966年1月6日生

[履歴]

[学歴]

1988年3月 国士舘大学体育学部体育学科卒業

[学位]

体育学士

[職歴]

1988年4月～1989年3月 大阪府大阪市立生野工業高等学校 非常勤講師

1989年4月～1990年3月 香川県坂出市立坂出中学校 常勤講師

1990年4月～2002年3月 香川県立坂出工業高等学校 教諭

2002年4月～2003年3月 青森山田学園本部 事務

2003年4月～2004年3月 青森短期大学 助手

2004年4月～2009年3月 青森短期大学 講師

2009年4月～2012年3月 青森短期大学 准教授

2012年4月～2015年3月 青森大学 准教授

2015年4月～ 青森大学 教授

[受賞]

2004年8月 優秀指導者賞 (東北体操協会)

2002年～2011年・2014年 (11回) 優秀指導者賞 (青森県体操協会)

2005年～2011年・2014年 (8回) 青森県優秀スポーツ指導者賞 (青森県体育協会)

2010年11月 県褒章受章 (青森県知事)

2012年11月3日 スポーツ特別功労賞 (階上町教育委員会)

[所属学会]

日本体育学会、日本スポーツ心理学会

[教育活動]

[担当科目]

スポーツ心理学、救急法、体育実習 (器械運動)、体育実習 (体力づくり運動)、体育方法学 (柔道・ダンス)、保体科教育法Ⅳ、体育実技A、体育実技B、(スポーツ政策論)

[卒業研究指導]

スポーツコースの学生らしく、自分の競技経験等からテーマを選び、自分にしか書けない (調査や統計) 卒論に取り組むよう指導している。そこで、週一回の授業では、学生一人ずつが調査・研究の進行状況を発表したり、周りからのアドバイスを受けたり協力したりなどを行っている。それを通して、個々の学生の発言力が高まり、コミュニケーション能力も向上している。

[ゼミ指導]

2004年度 7名、 2005年度 8名、 2006年度 12名、

2007年度 9名、 2008年度 3名、 2009年度 6名、

2010年度 4名、 2011年度 2名、 2012年度 6名、

[教育指導に関する特記事項]

1. スポーツ心理学における実践 (2006～現在)

元シンクロのオリンピック選手が作成したスポーツにおける心理診断テスト (質問表) で自らのス



トレスパターンを考えさせる。またその集計結果を本学以外のスポーツ選手達の情報を入手することにより、地域・種別といった幅広い分野での心理状態を考察できる。

授業導入では、学生が今旬のスポーツニュース（インターネット・新聞）を取り上げ、それぞれ監督や選手の立場になり、戦略や心理状態などを皆で議論する。

## 2.スポーツ政策論における実践（2012～現在）

我が国におけるスポーツ振興方策と行政について、全体的枠組みと根拠法令の概要を理解し、地域におけるスポーツ振興方策と行政のかかわりを具体的に把握する。特に平成22年に「スポーツ立国戦略」が発表され、平成23年にスポーツに関する法律「スポーツ基本法」が制定され、平成24年には「スポーツ基本計画」が発表されたことから、国によるスポーツへの取り組みが大きく変化してきていることを学ぶ。

また、私が今まで携わってきたCMやドラマ、スポーツイベントの制作当初から完成までの過程やそれに伴う取り組みについて紹介する。

## 3.体育実習（体力づくり運動）における実践（2012～現在）

以前はたくさんの遊びの中から自然と得ていた身体能力は、今では意識して養っていかなければならない時代となった。しかも、日常生活の中でもパソコン作業や立ち仕事での姿勢、またリラックスできる自分の部屋ですら座る場所が決まっている。そこから慢性的な身体の歪みが発生し、体調をきたすこともあるため、その歪みを取り除くための身体ほぐしや文部科学省推進の身体づくり運動を参考に体得する。

## 4.体育実習（器械体操）における実践（2009～現在）

技を習得するために必要な能力を身に付けるとともに、段階的に自分の運動課題にしっかりと取り組めるように指導している。また、その解決にあたっては自らの考えや工夫が感じられるような、課題達成（できばえ）楽しさ（喜び）を味わうことができるようにさせている。

内容としては、指導方法は勿論のこと、特に補助方法を習得することで仲間と協力して安全で計画的に活動できるようにしている。

## 5.救急法における実践（2006～現在）

日本赤十字社青森県支部主催救急法救急員養成講習会とタイアップし行っている。一般の受講生も参加しており、資格取得（救急法救急員）を重視している。

## 6.スポーツ方法学（柔道・ダンス）における実践（2014～現在）

これまで「武道またはダンス」としての中学校選択領域であったが新学習指導要領では「武道」と「ダンス」を含めた全ての領域が必修となる。特に柔道は授業中のケガが多く、部活動においては死亡事故も出ており、文部科学省からも特別指導に対する通達があった。また、青森県教員採用試験でも柔道は必須となっている。また、ダンスにおいては自らを表現するといった内容を盛り込んでいる。柔道・ダンス共に安全で楽しく行うための授業展開について学習させている。

## 【研究活動】

### 【研究テーマ】

- 1.男子新体操（徒手運動）について
- 2.転回系（マット運動）の指導及び補助について

### 【著書、論文、総説】

- 1.「男子新体操」  
ー選手とコーチの独習マニュアルー（アイオーエム社、2009.2.2）
- 2.「青森大学新体操部の実情」（学術研究紀要 第36巻・第3号、2014.2）
- 3.公益財団法人 日本体操協会 新体操男子規則 2015年度版（年度内完成）

### 【学会発表】

「第16回日本レーザー・スポーツ医科学学会」においてシンポジウム：運動器疼痛対策と運動



連鎖を応用としたスポーツ外傷・傷害からの復帰、予防への取り組み、男子新体操の現状を発表する（於：慶應義塾大学日吉キャンパススポーツ棟）スポーツ・レーザー医科学学会（2012.12.1）

#### [その他の活動]

##### [公開講座、講演、セミナー]

###### 1.全国指導者・選手合同合宿（2009～2015）

2日間の合同合宿（ジュニア・中学・高校・大学）を行い、全国からの指導者（特に講習）・選手（特に実技）を対象に主催者として開催した。現在参加者は400名を超えている。

###### 2.男子新体操審判技術研修会（2009.12.5～6、2010.2.13～14、2012.1.28～29）

2日間において新体操第1種公認審判員認定講習会の講師として講習会を開催する。1日目講習、2日目筆記試験及び実技試験を担当し合否の判定も行った。

###### 3.男子キッズ選手権大会（2012.1.8、2013.1.10）

男子新体操委員会委員長として普及の一環を目的として、5歳～小6までを対象に特設ルールのもと、全国初となる大会を長野県の協力を得、開催した。

###### 4.男子新体操公認審判員：元審判部副部長・現男子新体操委員会委員長（2009～2014.10）

各種全国大会において（インターハイ・全国高校選抜・全日本ユースチャンピオンシップ・全日本ジュニア・全日本社会人等）主任審判員として重責を担い業務にあたっている。日本最高峰の全日本選手権では上級審判員として、審判業務の最高責任者を担っている。

###### 5.講演（2013.1.30）

「一般教養研修」の講師として、社会保険診療報酬支払基金青森支部の職員に講演する。

###### 6.記念講演（2013.7.12）

第62回北海道・東北ブロック保育研究大会（700人参加）において記念講演「子ども達の未来へ」を行う。

###### 7.救急法救急員養成講習会（2013.9.2～4、2014.9.1～3）

本学において日本赤十字社青森県支部と合同で開催した。

###### 8.教員免許状更新講習（2013.9.7、2014.8.5）

本学において2回、教員免許状更新講習（マット運動並びに表現）を開催した。

###### 9.模擬授業（2013.9.12）

大湊高校大学見学会において模擬授業（アスリートとアーティストの融合）を行う。

###### 10.大阪市立高等学校教育研究会講演（2014.5.16）

大阪市教育センターにおいて、「男子新体操の現状と取り組み」と題し、平成26年度大阪市立高等学校教育研究会保健体育部会において講演する。

###### 11.はしかみキャンパス講演会・階上町連合PTA研修会（2014.7.13）

「子ども達の未来のために」と題し、ハートふるはしかみにおいて（約300名）講演を行った。

###### 12.第52回全国知的障害福祉関係職員研究大会（2014.9.5）

特別講演I「青森から世界へ」と題し、リンクステーションにおいて上記関係者約1,700名の前で講演を行った。

###### 13.平内町連合PTA研究大会（2014.9.6）

平内町勤労青少年ホームにおいて（約200名）講演を行った。

##### [学内各種委員]

学生委員会（副委員長）、ハラスメント防止対策委員会、教職課程部会、体育部会

「短大学生委員会委員長」（2006～2012）の時には下記に記載したの2点について取り組んだ。

1.支援システムとは別に毎月の欠席者（公休は除く）を専任教員が集計しその統計を全教員が把握することにより、生活の乱れ等を早期に指導できるようにしている。保護者との連絡を密にし、必要あれば家庭訪問を行い、登校を促している。



2.月一回学生（クラスの代表）と学生委員会の教員とのミーティングを行い、快適な学校生活を送っていくことを目的とする忌憚のない意見交換をして相互理解に努めている。

【学外各種委員】

- 1.（公財）日本体操協会 男子新体操委員会 委員長（2011.4～2014.10）
- 2.（公財）日本体操協会 男子新体操委員会 専門アドバイザー（2015.4～現在）
- 3.全日本学生体操連盟 理事（2008.4～現在）
- 4.東北・北海道学生体操連盟 副会長（2009.4～現在）
- 5.東北体操協会 新体操男子専門委員長（2009.4～現在）
- 6.青森県体操協会 新体操男子専門委員長（2009.4～現在）
- 7.青森県ラジオ体操連盟 理事（2012.4～現在）
- 8.第 67 回国民体育大会新体操競技 競技副委員長（2012.9.28～2012.10.1）
- 9.第 13 回・14 回全国体操小学生大会 団体体操役員長（2013.3.26～28、2014.3.26～28）
- 10.青森市立幸畑小学校 P T A 副会長（2014.4～現在）
- 11.青森市スポーツ推進審議会委員（2015.4～現在）

【課外活動】

現在、新体操部部長 兼 監督

<国内競技会>

2002～2014 全日本学生新体操選手権大会優勝（13 連覇中）

全日本新体操選手権大会優勝（10 回の優勝）

<海外>

1.アジア競技大会（2002.9）

アジア競技大会にエキジビションとして参加する。（韓国・釜山）

2.世界選手権大会（2003.9）

第 26 回世界新体操選手権大会 G A L A に参加する。（ハンガリー・ブダペスト）

3.国際大会（2003.11、2005.11）

男子新体操国際オープンで優勝（2 回）する。

4.国際活動

(1) UCLA' s National NCAA Champion (UCLA 大学サザン校) のエキジビションとして参加する。(2004.2)

(2) Unive 'Gym Gala (オランダ)・2006 Feuerwerk der Turnkunst (体操芸術の花火 in ドイツ) 2 カ国において「日本の体操」として招待される。(2006.12.20～2007.1.16)

(3) ドイツ・ニーダーザクセン州体操協会主催、ヨーロッパで最も人気のあるショー、2007 Feuerwerk der Turnkunst に 2 年連続で招待をうける。ベルリン他 16 都市 26 公演。観客動員数 10 万 5 千人に及ぶ。(2007.12.28～2008.1.18)

(4) 2011 Feuerwerk der Turnkunst に 3 度目の招待をうける。ベルリン他 23 都市 32 公演・観客 17 万人から絶賛を受ける。(2010.12.26～2011.1.25)

(5) オランダ (アムステルダム 4 公演)・ドイツ (23 都市 38 公演) で演技を披露する。延べ 20 万人が来場する。(2013.12.19～2014.1.27)

(6) S4E GYM GALA X-MAS TOUR2014 (オランダ 4 公演・ベルギー 2 公演) に日本の体操として招待を受け演技を披露する。(2014.12.11～12.27)

(7) ロシア新体操 80 周年記念 G A L A (サントペテルベルク・マリンスキー劇場) に世界各国の代表選手が集結する中、男子 (日本だけ) 代表として招集され演技を行う。(2015.2.7～2.17)

<特別活動>

1. CM (コマーシャル) カルピスソーダ 2 年連続出演 (2009.5.9～10 撮影)

神奈川県において屋外での CM 撮りを行う。月間 CM 好感度ランキングで 2 位に入る。その他 W E



B選手権と題し、インターネット上での国際大会を開催、そのモデルとなる演技を作成する。

## 2. イベント

### (1) 名古屋 (2009.7.11)

名古屋ナディアパークにおいて特設ステージでのパフォーマンス及び健康な体づくりについての講義を行う。

### (2) 新宿 (2009.7.18)

新宿アルタ前の特設ステージでのパフォーマンス及び健康な体づくりについての講義を行う。

### (3) 青森 (2009.8.3~7)

青森ねぶた祭り (5日間) で「カルピスソーダ」の山車とともにパフォーマンスを披露する。

## 3. 協力

### (1) アーティスト (2009.12.31~現在)

某アーティストのバックダンサーとして学生2名が抜擢され、年末の紅白歌合戦・ラストイヤーコンサートで活躍。2013年は2組の卒業生が紅白に出演。

### (2) TBS 系列連続ドラマ「タンブリング」(2010.1.25~毎週土曜 19:56~)

2010年4月17日放送予定を前にし、1月25日TBS ドリマックスプロデューサー達とドラマ製作に際し、思い(お笑いにしたくない)等含めた打ち合わせを行う。第1話から、私の著書や写真の使用許可(提供)をし、第8話(5月9日撮影)・最終話の出演等を協力する。

### (3) CIRQUE DU SOLEIL : シルク・デュ・ソレイユ (2011.2.13~18)

世界最大のパフォーマンス集団 CIRQUE DU SOLEIL と東京ディズニーランドに隣接する会場 ZED で6日間のワークショップ並びに契約等を行う。現在3名の卒業生が世界ツアーに参加、更に2名を新たに契約しモンテリオールに(2012.9)派遣している。

### (4) 報道・マスコミ関係

- ・ J A L 機内誌 (SKYWARD) 見開き3ページ掲載 (国内外411万人に読まれている) (2012.11)
- ・ テレビ朝日、「マツコ&有吉の怒り新党」の番組において、『新・3大「青森大学・男子新体操部の演技」』として紹介 (2012.7.11)
- ・ リクルートカレッジマネジメント第176号に新体操部が紹介 (2012.9.1)
- ・ TBS 中居正弘の「金スマ」に2回に渡り出演 (共に16万人視聴する) (2012.11.2) (2012.11.16)
- ・ TBS 「火曜曲」に生出演 (2012.12.25)
- ・ 報道ステーション松岡修造のコーナーで「BLUE」が特集 (2013.2.4)
- ・ フジテレビ「とくダネ!」世界で活躍する青森大学卒業生が紹介 (2013.2.21)
- ・ スーパーJチャンネル aba で福島の被災地荒井小学校での演技会の模様を特集される (2013.3.14)
- ・ フジテレビ「アゲるテレビ」の番組において『青森大学新体操部並びにシルク・デュ・ソレイユで世界ツアー参加の卒業生』を紹介。 (2013.5.22)
- ・ NHK 青森「あっぷるワイド」18:10~にL I V E出演。 (2014.11.28)
- ・ A B A 青森朝日放送「ハッピー」9:35~の番組においてスタジオ・体育館とL I V E出演。 (2013.12.7)
- ・ A B A 青森朝日放送「スーパーJチャンネル」で新体操部員の「シルク・デュ・ソレイユ」オーデションの模様を放送。 (2013.12.10)
- ・ A T V 青森テレビ「おしゃべりハウス」に出演。 (2013.12・11)
- ・ A B A 青森朝日放送「スーパーJチャンネル」の番組においてドイツで開かれた観客20万人を動員した公演の様子を特集。 (2014.2.18)
- ・ エフエム青森において学生2名とともに知事との対談を収録。 (2014.5.26) 6/1、7時放送
- ・ NHK 青森の放送局において全日本学生新体操選手権13連覇報告として出演 (2014.9.4)



・「月刊EXILE vol.85」10万部発行においてスペシャルトークセッションの枠でTETSUYA&USAと対談を行う。(2015.3.27)

・NHK・Eテレで月～金に放送中の「Eテレ 2355」「Eテレ 0655」の番組で全日本優勝映像を取り上げ放映される。

(5)舞台「BLUE」(2013.1.26)

「亡き教え子の夢」と「青森の文化」の構築のために、新体操界初となる舞台公演「BLUE」を開催。その想いに賛同していただいたプロのダンサーや振付師・舞台関係の協力を得、リンクステーションホール(青森市文化会館)超満員の2000人を集客した。青森山田高・青森大の他、卒業生で結成している「BLUE TOKYO」、キッズから中学生までの「BLUE TOKYO KIDS」というアスリートとアーティストの融合を創り上げた。

(6)特別公演「青森大学男子新体操部」(2013.7.18)

国立代々木第二体育館において世界的デザイナー三宅一生氏の発案により、その名も「青森大学男子新体操部」という一夜限りのショーを開催した。皇室から人間国宝の方をはじめ、世界のマスコミ関係者200社を含む3000人を招待してのイベントで想像を絶するものであった。その演出にDaniel Ezralow(パリコレやソチ冬季オリンピック開会式演出)、その他、モーショングラフィックは中村勇吾、音楽はオープンリールアンサンブル、ミュージックスーパービジョンは畑中正人、ドキュメンタリーフィルムディレクションは中野裕之と各界で活躍するクリエイターが参加した。

(7)映画「FLYING BODIES」(2013.10.3)

全国に先駆け本学において映画「FLYING BODIES」(新体操部のドキュメンタリー映画)を上映する。(11月30日～テアトル新宿・12月12日立川シネマシティー・12月14日～テアトル梅田で上映、2014.1.2BSフジで放送)

(8)「BLUE Vol.2」(2014.2.7～8)

2日間3公演を行い3000人の集客を得、確実に青森の文化として根付いてきている。

(9)NHK青森と「元気あつぷる体操」制作(2014.3～現在)

平均寿命が全国最下位の青森県。「脱!短命県」のキャンペーンとしてNHKのテレビやラジオで流せる体操を作り、県内40市町村を廻りながら地域の人たちと触れ合う企画を作成。

・階上保育園(2014.7.13)

運動会にて「元気あつぷる体操」を一緒に披露しNHK青森に放送される。

・青森市老人クラブ連合会(2014.9.1)

青森市総合福祉センターにおいて「元気あつぷる体操」の講師を勤める。

・生涯学習フェア2014～学びと社会参加の集い～(2014.10.18)

あおもり県民カレッジ(青森県総合社会教育センター)の要請を受け、「明日の自分にチャレンジ!」をテーマに、我々の活動を紹介及び体験(元気あつぷる体操)をしてもらう。

・NHKあおもり会館公開2014(2014.10.19)

「おにいさんといっしょ」というコーナーで全4回のミニステージを行う。そこでは「元気あつぷる体操」のワンポイントレッスンや技の披露などを行う。その模様がNHKで放送される。

・「あおもり市民健康アップフォーラム」(2014.11.20)

リンクステーション青森において、市長をはじめとする市民に指導を行う。

・十和田工業高等学校健康教室講師(2014.12.4)

3学年207名に健康教室の一環として指導する。

・青森県スポーツ推進委員実技研修会講師(2014.12.6)

青森市スポーツ会館において講演・実技を指導する。

(10)青森県反射材大作戦CM撮り(2014.9.30)

青森県環境生活部県民生活文化課の企画、青森博報堂からの要請で夜間事故を防ぐためのCM(11月より放送)に出演する。



- (11) 市民体育祭 50 周年記念「ラジオ体操・みんなの体操会」(2014.10.18)  
 合浦小学校において正しいラジオ体操を学ぶと題し、青森県ラジオ体操連盟理事として参加する。
- (12) 東北高等学校・東北ジュニア新体操選手権大会審判長及び研修会 (2014.11.21～11.23)
- (13) 国宝坂東玉三郎演出の「バラレー」(赤坂アクトシアター) に一ヶ月に及ぶ稽古と公演に出演させる。(2015.3.7～3.15)

<社会貢献・演技会>

- 1.青森市立野内小学校クラブ活動(ダンス)講師・実技指導(2012・2013.5～10の月一平均計6回)
- 2.2009年の演技会  
 青森市インドアオープン(室内ローラースケート)記念のイベント、碓ヶ関小学校「学習発表会」、岩手県滝沢村「新体操フェスタ in たきさわ 2009」、山形県遊佐町「第2回男子新体操演技会 YUZA GALA 2009」、岡山県井原市「第4回井原新体操フェスティバル」、「福島新体操クラブ発表会」
- 3.2010年の演技会  
 東京 RISING DANCE FESTIVA「UNITED 2」、RISING DANCE FESTIVA「UNITED 3」、舞戸小学校鱒ヶ沢地区合併する小学校4校交流会イベント、岩手県滝沢村「新体操フェスタ in たきさわ 2010」、「第5回井原新体操フェスティバル」、「福島新体操クラブ発表会」
- 4.2011年の演技会  
 盛岡市スタジオ Danse One「こんなステージ・観たことない」、東京都 RISING DANCE FESTIVA「UNITED 4」、第4回青森県民スポーツ・レクリエーション祭でのラジオ体操模範演技、青森市「平成23年度子どものスポーツ活動推進事業」模範演技及び補助役、大学祭特別記念演技会「全日本学生新体操選手権大会10連覇」、弘前市トップアスリート招致支援事業・演技会並びに講習、東京ドームシティ RISING DANCE FESTIVA「UNITED 6」、北上市体育協会主催「KITAKAMI アーティスティックフェスタ 2011」、「福島新体操クラブ発表会」、板橋区立文化会館・東京ジュニア新体操クラブ発表会
- 5.2012年の演技会  
 第5回青森県民スポーツ・レクリエーション祭でのラジオ体操模範演技、「北上アーティスティックフェスタ 2012」、大学祭、「福島新体操クラブ発表会」
- 6.2013年の演技会  
 福島市荒井小学校、福島会津「華舞翔新体操倶楽部」、第24回「健康まつり」サンワアリーナ、青森中央高校、大学祭「全日本学生新体操選手権大会12連覇記念公演」を開催(996名の観客を動員)、弘前第一中学校、埼玉昌平中学高等学校
- 7.第6回青森県民スポーツ・レクリエーション祭でのラジオ体操模範演技、みちのく銀行国道支店120周年記念演技会、弘前中央高校体育館新築記念演技会

氏名 森 宏之 (MORI Hiroshi)

所属 経営学部 経営学科

職種 教授 図書館長

生年月日 1956年2月20日

[履 歴]

[学 歴]

1978年3月 早稲田大学 社会科学部 社会科学科卒業

1998年3月 法政大学大学院 社会科学研究科 経済学専攻 修士課程修了

2013年3月 埼玉大学大学院 経済科学研究科 博士後期課程 満期退学

[学 位]

修士(経済学)

[職 歴]

1978年4月 クラウン・リーシング株式会社 入社

1998年4月 青森短期大学 商経科 講師

2004年4月 青森短期大学 商経科 助教授

2007年4月 青森短期大学 地域創造学科 准教授

2008年4月 青森短期大学 地域創造学科 教授

2013年4月 青森大学 経営学部 教授

2015年4月 青森大学附属図書館長を兼務(～現在)

[所属学会]

証券経済学会、日本金融学会、日本ベンチャー学会、日本財務管理学会、東北経済学会、生活経済学会、日本産業科学学会

[教育活動]

[担当科目]

金融論、ベンチャー経営論、企業財務論Ⅰ、経済学、社会科学方法論演習、専門演習

[ゼミ指導]

2015年度(2年ゼミ): 12名

(専門演習3年): 10名

[教育指導に関する特記事項]

2004年に青森県の調査委託事業を当時担当中の青森大学社会学部4年生ゼミの授業の一環として実施した青森市及び五所川原市における高齢者の地域交流に関するエコマネー実験の調査結果に基づき、青森県の『エコマネー導入マニュアル』が作成されたことが、東奥日報・毎日新聞等で記事(2004年4月4日)として報道された。

[研究活動]

[研究テーマ]

(1)証券化及び金融制度に関する研究

(2)日本の不動産業に関する歴史的分析

(3)社会人の高度職業教育に関する調査研究



[著書、論文、総説]

1. 『キャリアアップのための大学院進学のスズメ』中央経済社,2001年4月
2. (分担執筆)『大槻金融辞典』大月書店,2002年4月
3. 『日本版MBA取得サクセスストーリー』中央経済社,2002年8月
4. (共同執筆)『エコマネー導入マニュアル』青森県健康福祉部高齢福祉保健課、2004年3月
5. 「保険会社によるABS保証について」,証券経済学会『証券経済学会年報』第34号、2001年5月
6. 「金融商品および金融機関に関する意識—2001年度青森地域生活調査から—」,青森大学地域問題研究所『地域社会研究第10・11合併号』,2003年3月
7. 「債務不履行に関する社債関係者の諸問題」青森大学・青森短期大学学術研究会『研究紀要』第26巻第2号,2003年11月
8. 「不動産鑑定評価基準の改正と不動産証券化市場への影響」東北経済学会『東北経済学会年報』,2008年3月
9. 「不動産証券化市場の動向と投資家保護 - 不動産証券化における情報開示について-」,証券経済学会『証券経済学会年報』、第43号,2008年7月
10. 「上場不動産投資信託の海外投資自由化について」,日本財務管理学会『日本財務管理学会年報』,2009年5月
11. 「証券化の再検討について」証券経済学会『証券経済学会年報』第45号,p295-297,2010年
12. 「J-REITの海外投資制度の諸問題」埼玉大学経済学会『経済科学論究』第8号,2011年
13. 「J-REITの資本政策手段の規制緩和について」青森大学学術研究会『研究紀要』第36巻-第3号 pp165-176,2014年2月

[書評]

1. 相沢幸悦『環境と人間の転換期の経済学—転換期の資本主義を読む』の書評、『季刊 個人金融』2014年冬号、一般財団法人ゆうちょ財団貯蓄経済研究部,2014年2月

[学会発表]

1. 「カラオケに見る技術革新と市場構造の変化について」日本産業科学学会 全国大会報告,1996年11月
2. 「負債のエイジェンシーコスト仮説から見た資産流動化の意義」KASG 関東会計学研究グループ本部総会報告,1997年11月
3. 「金融保証保険について」日本産業科学学会 全国大会報告 2000年7月
4. 「市場型間接金融と集団投資スキーム」に対する討論者報告,2001年5月
5. 「社債デフォルトと投資家保護問題」東北経済学会第54回大会報告 2003年9月
6. 「不動産証券化市場の現状と課題」東北経済学会第57回大会報告,2006年10月
7. 「不動産鑑定評価基準の改正と不動産証券化市場への影響」証券経済学会第67回全国大会報告 2007年6月

[その他の活動]

証券経済学会 年報編集委員(2011年4月～現在)

[研究費獲得状況]

青森県健康福祉部高齢福祉保健課 調査委託研究「高齢者相互支援体制検討事業のための「ハート&ハート計画」(2003年7月～2004年3月)4,000,000円

[公開講座、講演、セミナー]

1. 2000年5月 「金融ビックバンとは何か」青森県川内町
2. 2007年11月 「サブプライムローン問題と日本経済」青森市ロータリークラブ
3. 2011年1月 「ベーシックインカムと地域経済」青森県委託事業「家庭教育を支援する地域づくりプロジェクト」講演会

[学内各種委員]

2015年度：青森大学附属図書館長、全学図書委員会委員長、青森大学総合研究所産業研究班班長

[学外各種委員]

- 青森県総合開発審議会委員(2004年1月～2008年1月)  
青森県新青森県基本計画策定委員会委員(2004年1月～2008年1月)  
青森生活創造推進プランフォローアップ委員会委員(2004年1月～2008年1月)  
青森シュタイナー教育研究交流会幹事(2003年1月～2010年12月)  
全国アートNPOin青森実行委員(2007年5月～2007年10月)  
特定非営利法人 日本商標機構理事(2009年7月～現在)  
青森市指定管理者候補者選定委員会委員(2010年5月～現在)



氏名 吉川 昌則 (YOSHIKAWA Masanori)

所属 経営学部経営学科

職名 教授

[履歴]

[学歴]

1989 年 3 月 日本体育大学体育学部社会体育学科卒業

[学位]

体育学士

[職歴]

1998 年 4 月 青森大学工学部情報システム工学科講師

2004 年 4 月 青森大学社会学部社会学科講師

2007 年 4 月 青森大学社会学部社会学科准教授

2010 年 4 月 青森大学経営学部経営学科准教授

2013 年 4 月 青森大学経営学部経営学科教授

[所属学会]

日本体育学会、日本スキー学会、日本スポーツ心理学会、日本フットボール学会

[教育活動]

[担当科目]

体育実技 A・B、スポーツ社会学、スポーツ指導論、体育実習（アルペンスキー）、保健体育科教育法Ⅳ、シーズンスポーツ B、体育方法学（雪上スポーツ）、スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ

[教育指導に関する特記事項]

- 1, 学生への個別指導をオフィスアワーとして研究室にて行っている。
- 2, 体育実技においては、主体的な活動ができるようなオーガナイズを心がけて実施している。
- 3, 2008 年度までサッカー部部長、監督として学生指導を行っていた。

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) 生涯学習を意識した体育実技カリキュラムの工夫
- (2) アルペンスキーの技術メカニズムの解明とそのための指導方法論
- (3) アルペンスキーの技術における加速効果
- (4) 対人競技におけるパーソナルスペース

[著書、論文、総説]

- 1, 「ワクシング技術教習会」に参加して（コラム）, 日本スキー学会誌第 18 巻, 2008
- 2, 「アルペンスキーにおける谷周りの局面についての一考察：指導方法とその重要性の視点から」『研究紀要』32.2. 青森大学・青森短期大学学術研究会, 2009
- 3, 「アルペンスキーにおける谷回り部分を重視した指導方法」『研究紀要』33.2. 青森大学・青森短期大学学術研究会, 2010
- 4, 「ジュニア期におけるアルペンスキーの指導方法論」『研究紀要』34.1 青森大学・青森短期大学学術研究会, 2011
- 5, 「パーソナル・スペース研究の概観-サッカーにおける対人距離解明の足がかりとして-」『研究紀要』35.1 青森大学・青森短期大学学術研究会, 2012
- 6, 「テレマークビンディングの取り付け位置がアルペン用スキー板の操作性に及ぼ

す影響に関する一考察 (2)』『研究紀要』35.3 青森大学・青森短期大学学術研究会,2013

7, 「テレマークビンディングの取り付け位置がアルペン用スキー板の操作性に及ぼす影響に関する一考察」『スキー研究』10 日本スキー学会, 2013 年

8, 「日本におけるアルペンスキーの普及に関する一考察」『研究紀要』36.3 青森大学学術研究会, 2014 年

9, 「外スキーの押しずらし操作を強調したアルペンスキー指導方法の効果について一初級・中級者指導の事例から」『研究要綱』37.2 青森大学学術研究会, 2014 年

#### [その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

1, 甲田幼稚園スキー教室主任講師 (2006 年度～現在)

#### [学内各種委員]

就職委員、大学見学班、オープンキャンパス班、基礎スタンダード部会、体育部会、実践スキルグループ

[学外各種委員]

日本体育学会第 57 回大会実行委員 (2006 年度)

東北地区大学サッカー連盟総務部副部長、規律・フェアプレー部副部長 (2007 年度～現在)

日本体育学会東北支部監事 (2009 年度～2010 年度)

日本スキー学会理事 (2010 年 3 月～現在)

日本スキー学会第 25 回大会実行委員長



氏名 石塚 ゆかり (Ishizuka Yukari)  
所属 経営学部経営学科  
職名 准教授

#### [履歴]

##### [学歴]

1999年3月 愛知淑徳大学文学部国文学科卒業  
2001年3月 愛知淑徳大学大学院コミュニケーション研究科異文化コミュニケーション専攻博士前期課程修了  
2008年2月 韓国中央大学校大学院日語日文学科言語学専攻博士後期課程修了

##### [学位]

1999年3月 学士(文学) [淑徳大学]  
2001年3月 修士(学術) [淑徳大学]  
2008年2月 文学博士 [韓国中央大学校]

##### [職歴]

2001年4月 青森明の星短期大学現代コミュニケーション学科講師  
2005年3月 韓国カトリック大学校言語文化学部日語日本文化専攻講師  
2008年4月 青森大学経営学部経営学科講師  
2013年4月 青森大学経営学部経営学科准教授

##### [所属学会]

社会言語科学会、日本語教育学会、日本語学会、言語学会、日本韓国語教育学会、韓国日本文化学会、韓国日語日文学会、韓国日本語学会

##### [教育活動]

##### [担当科目]

言語学、臨床コミュニケーション学演習、韓国語ⅠⅡ、実用日本語ⅠⅡ、日本語会話AB、キャリアデザインⅠⅡ、プロジェクト演習ⅠⅡ

##### [教育指導に関する特記事項]

1. 日本語と韓国語の対照研究を行うため、年に数回韓国へ出かけ、その成果を学会で発表するとともに、教材開発等に活かしている。
2. 東北地方を中心に外国人への日本語支援、論理的な考え方や話し方、円滑な人間関係作り、ことばとコミュニケーション等に関する研修や講演活動を展開している。
3. 地域の韓国語講座や韓国に関する様々なイベントを通し、青森とソウルの交流の活性化に寄与している。
4. 留学生が日本人学生や地域の人々と交流できる機会を提供している。
5. 学生と地域の人々をつなぐワールドカフェ等のイベントを開催し、総合的な学習の場を提供する。
6. 学生主体のプロジェクトチームを立ち上げ、学生ならではの発想を生かした地域貢献活動を支援している。

##### [研究活動]



#### [研究テーマ]

1. 日韓の苦情とクレームに関する社会言語学研究 (科学研究費助成事業)
2. 医療現場におけるコミュニケーションに関する研究
3. 日本語、中国語、韓国語の待遇表現、配慮行動に関する研究

#### [著書、論文、総説]

##### [論文]

1. 日本人と韓国人の伝聞行動に関する一考察—伝え手の心的負担度を中心に、日語日文学研究 62 集 1 号、韓国日語日文学会、pp.115-134、2007 年 8 月
2. 伝聞行動に関する日韓対照研究—伝え手の配慮意識に注目して、日本文化学報 34 集、韓国日本文化学会、pp.199-218、2007 年 8 月
3. 伝聞行動と日本語教育—「伝聞」と「引用」の違いを中心に、日本研究 23 集、中央大学校日本研究所、pp.29-51、2007 年 8 月
4. 日韓の伝聞行動に関する社会言語学的研究、中央大学校大学院・博士論文、2008 年 2 月
5. 意見文における意見表明と反論提示—日中韓大学生の日本語作文を分析して、日本語教育方法研究会誌、Vol.16、No.2、pp.38-39
6. 日本語談話における伝聞と引用—伝達内容および親疎・上下関係によるバリエーション、青森大学研究紀要第 34 巻第 1 号 pp.39-63、2011 年 7 月
7. 言語行動としての配慮に関する日韓対照研究—聞き伝え場面における 3 者間の人間関係に注目して、日本語学研究 31 集、韓国日本語学会、pp.291-311、2011 年 9 月
8. 韓国語の聞き伝え談話に関する一考察—韓国語母語話者による文末形式の切り替え、韓国語教育研究第 2 号、日本韓国語教育学会、pp.137-153、2012 年 9 月
9. 接客場面における日本語の不満表明に関する一考察—母語話者と非母語話者の比較から—、青森大学研究紀要第 36 巻第 3 号、青森大学学術研究会、pp.41-57、2014、2 月
10. 日韓の苦情行動に関する比較研究—不快感情と個人特性の影響に注目して—、青森大学附属総合研究所紀要第 16 巻 2 号、2015、3 月

##### [教材執筆 (共著)]

1. 日本語能力試験模擬問題集 試題 3 級大捜査 I、大新書局、2004
2. 日本語能力試験模擬問題集 試題 4 級大捜査 I、大新書局、2004
3. Diet Japanese 初級 1、時事日本語社、2014
4. Diet Japanese 初級 2、時事日本語社、2014

##### [学会発表]

1. 日韓の伝聞場面における言語形式に関する一考察、韓国日本学会、第 74 回国際学術大会、2007、2 月
2. 日韓の聞き手および話題の人物に対する配慮表現—大学生の聞き伝え行動に見る働きかけ方と敬語使用を中心に、韓国日語日文学会夏季学術発表大会、2009、6 月
3. 意見文における意見表明と反論提示—日中韓大学生の日本語作文を分析して、第 33 回日本語教育方法研究会、2009、9 月
4. 三者間コミュニケーションの日韓対照研究—聞き伝え場面における伝え手の立場に注目して、第 21 回韓国日本語学会学術発表大会、2010、3 月
5. 日本語と韓国語の配慮表現に関する一考察—聞き伝え場面における聞き手との親疎関係に注目して、韓国日本語学会第 23 回国際学術発表会、2011、11 月



6. 韓国語談話における聞き伝えとその習得—文末形式を中心に—日本韓国語教育学会第2回学術大会、2011年11月

7. 医療現場における不満表明ストラテジーの日韓比較、第30回韓国日本語学会秋季大会、2014年9月

#### [その他の活動]

##### [公開講座、講演、セミナー]

日本語論、愛知淑徳大学集中講義、2009、2月

冬季集中日本語研修、カトリック大学集中講義、2009、3月

日本語学、愛知淑徳大学集中講義、2009、8月

夏季集中日本語研修、カトリック大学集中講義、2009、9月

ことばとコミュニケーション、みんゆう薬品社内研修、2009、12月

日本語論、愛知淑徳大学集中講義、2010、2月

冬季集中日本語研修、カトリック大学集中講義、2010、3月

韓国語講座中級会話Ⅰ、在日本大韓民国民団青森県地方本部、2010、9月～11月

日本語文法のしくみ—日本語を客観的に分析する力を養うために、青森県国際交流協会第1回日本語ボランティア育成セミナー、2010年11月

待遇表現のしくみ—日本語を客観的に分析する力を養うために、青森県国際交流協会第2回日本語ボランティア育成セミナー、2010、12月

話が伝わるシステム—よりよいコミュニケーションを実践するために、青森県男女雇用共同参画センターオープンカレッジ in 黒石、2010年12月

韓国語講座中級会話Ⅱ、在日本大韓民国民団青森県地方本部、2011年4月～6月

韓国語講座中級会話Ⅲ、在日本大韓民国民団青森県地方本部、2011年9月～11月

コミュニケーション力を磨く—人と人をつなぐ日本語の使い方、青森大学オープンカレッジ市民大学、2011年11月

日本語教育ボランティア養成講座「中上級学習者の知的好奇心を満たす工夫」青森県国際交流協会、2012年1月

韓国語講座中級会話Ⅳ、在日本大韓民国民団青森地方本部、2012年4月～6月

外国語としての日本語、黒石ロータリークラブ定例会講和、2012年5月

男・女が輝くカダール講座傾聴のススメ、青森市男女共同参画プラザ・カダール、2012年7月（2日間）

共感力、あおもり出会いサポートセンター（青森、弘前、八戸会場にて全3回）

2012年7月

韓国語講座中級会話Ⅴ、在日本大韓民国民団青森県地方本部、2013年9月～11月

あおもりウィメンズアカデミー講座「論理的思考で話すチカラを身につける」青森県男女共同参画センター、2013年9月

黒石市次世代リーダー育成講座、黒石市産業会館、2013年10月（2日間）

心を開く聴き方と伝え方、みんゆう薬品新入社員研修、2014年、3月

韓国語講座中級会話Ⅵ、在日本大韓民国民団青森県地方本部、2014年4月～11月

あおもりウィメンズアカデミー講座「論理的思考で話すチカラを身につける」青森県男女共同参画センター、2014年9月

コミュニケーションスキルを磨く、みんゆう薬品新入社員研修、2015年、3月

##### [学内各種委員]

教務委員会、留学生総合支援局、学習支援センター

[学外各種委員]

韓国日本語学会理事

話してみよう韓国語青森大会、予選審査委員、2014、11月

話してみよう韓国語青森大会、本選審査委員、2014、12月

NPO 法人あおもりコリアネット理事

NPO 法人あおもりハングルサービス理事



氏名 岩淵 護 ( Iwabuchi Mamoru )

所属 経営学部

職種 准教授

生年月日 1972年1月12日

[履 歴]

[学 歴]

1999年3月 桜美林大学経済学部経済学科 卒業

2001年3月 駒澤大学大学院経営学研究科経営学専攻修士課程 修了

2004年3月 駒澤大学大学院経営学研究科経営学専攻博士後期課程 満期退学

[学 位]

経営学修士

[職 歴]

2001年10月～2002年3月 学校法人国際理工専門学校 情報処理科 非常勤講師  
(システムアドミニストレータ対策授業 担当)

2004年7月～2006年3月 長岡技術科学大学工学部 非常勤講師  
(企業論特殊講義、企業論担当)

2005年4月～2008年3月 敬愛大学 経済学部 非常勤講師  
(販売管理論、経営情報論 担当)

2008年4月～2009年6月 駒澤大学 経営学部 非常勤講師  
(情報処理A、情報処理B 担当)

2008年4月～2009年3月 創価大学 経営学部 非常勤講師  
(生産管理論、工業経営論 担当)

2009年4月 青森大学経営学部講師

2009年4月～2009年6月 駒澤大学 経営学部 非常勤講師  
(現代商業論 担当)

2010年4月～ 八戸工業大学 非常勤講師  
(経営情報論担当)

2015年4月～ 青森公立大学 非常勤講師  
(グローバル経営論担当)

[所属学会]

日本情報経営学会、日本ベンチャー学会、情報メディア学会、工業経営研究学会、組織学会、経営情報学会、日本経営システム学会、日本経営学会、日本経営行動科学学会、経営戦略学会、国際環境マネジメント学会、アジア市場経済学会、日本労務学会、地域経営学会、日本コンベンション学会

[担当科目]

経営情報論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、専門演習Ⅲ・Ⅳ、プロジェクト演習、地域貢献プログラミング、経営基礎演習(1年)

[卒業研究指導]

2009年卒業研究：8名

2010年卒業研究：8名(2名が留学生)

2011年卒業研究：9名(1名が留学生)

2012年卒業研究：16名(5名が留学生)

2013年卒業研究：11名



2014 年卒業研究： 9 名

2015 年卒業研究： 9 名(2 名が留学生)

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) 経営戦略と経営組織の理論研究 (経営情報システムとの関連性も含む)
- (2) 技術経営, 環境経営, 国際経営よりみるイノベーション現象の考察
- (3) 企業システムの経済学よりみる経済学的ネットワーク現象の考察  
(取引費用のアプローチ、プリンシパル-エージェント理論、プロパティ・ライツ理論など新制度派経済学にもとづいた定性的分析法)
- (4) 技術経営 (生産管理、品質管理を含む)、環境経営の視点に加え、企業倫理の視点から日本のものづくりや日系企業の経営について捉える。国内では青森クリスタルバレイ構想の失敗事例、国外では東南アジア (CLMV 諸国) における日系企業の経営戦略についてのフィールドワークを行っている
- (5) 地域創生を地域の問題解決の視点より捉える考察

地域を単位としたグローバルネットワークの研究。平成 27 年度より「取引費用モデルを活用したクラスターネットワーク形成と地域活性化に関する実証的研究 (基盤研究 C)」として展開させていく。

[著書、論文、総説]

1. 「中小企業白書における企業間関係に対する一つの理論的接近」『言語・人文科学論集』(長岡技術科学大学), 第 19 号, 43-57 頁, 2005 年。
2. 「電子市場の方向性と制度体系が及ぼす影響-脱モール時代の方向性と理論的枠組み-」『経営学部研究紀要』(駒澤大学), 第 38 号, 57-112 頁, 2009 年。
3. 「情報システムの変遷からみた 2 つの組織観-Barnard, C.I. と Simon, H.A. の貢献-」『研究紀要』(青森大学・短期大学学術研究会), 第 32 巻-第 2 号, 35-64 頁, 2009 年。
4. 「産業誘致政策と企業戦略の方向性の乖離-資源活用の側面より捉えた青森クリスタルバレイ構想-」『経営学論集 リーマン・ショック後の企業経営と経営学』(日本経営学会編), 第 82 集, 172-173 頁, 2012 年。

[学会発表]

1. 「産業誘致政策と企業戦略の方向性の乖離-資源活用の側面より捉えた青森クリスタルバレイ構想-」、日本経営学会 第 85 回全国大会、2011 年 9 月。
2. 「地域経済のハブ化とイスラム経済圏ネットワーク形成の一考察- マレーシア, トルコの自動車メーカより捉えた産業政策と市場特性 -」、工業経営研究学会グローバルイノベーション研究分科会 トルコ・ドバイ視察報告会、2013 年 6 月。
3. 「マレーシアにおける産業政策と日系企業による戦略の方向性-自動車産業における政策と日系企業による現地経営の一考察 -」、アジア市場経済学会 第 17 回全国大会、2013 年 6 月。
4. 「バーナード=サイモン理論の貢献と取引コスト理論の学際的借用-情報技術の活用にもとづいた協働システム分析への応用-」日本経営学会東北部会報告、2014 年 12 月。

[学内各種委員]

地域貢献委員、学術委員、入試委員・学生募集



氏名 木村雅大 (KIMURA masahiro)

所属 経営学部経営学科

職名 准教授

生年月日 1976 年 3 月 29 日

[履歴]

[学歴]

2003 年 3 月 桜美林大学大学院国際学研究科 大学アドミニストレーション専攻  
修了

[学位]

国際学修士

[職歴]

2001 年 4 月 青森山田高等学校通信制課程東京校

2003 年 4 月 青森大学経営学部講師

2007 年 4 月 青森大学経営学部准教授

2008 年 4 月 青森大学学生部長

2010 年 4 月 青森大学入試広報局長

2011 年 11 月 学校法人青森山田学園理事長代行

[所属学会]

日本経営情報学会、日本教育方法学会、日本余暇学会

[教育活動]

[担当科目]

一般教養演習 (経営学部、社会学部)、生徒・進路指導論、コンピュータリテラシー

[卒業研究指導]

[ゼミ指導]

2006 年 一般教養演習 (経営学部)、科学方法論演習 (社会学部)

2007 年 一般教養演習 (経営学部)、科学方法論演習 (社会学部)

2008 年 一般教養演習 (経営学部)、科学方法論演習 (社会学部)

2009 年 一般教養演習 (経営学部)、一般教養演習 (社会学部)

[教育指導に関する特記事項]

1, 教職課程における「生徒・進路指導」において、より実践的なスキルを身につけるために、教育現場見学を取り入れた授業を行っている。

2, コンピュータリテラシーにおいては一方的な講義にならないよう、学生に実際に作成させたファイルをサーバーに保存させ、それをチェックするという方法をとっている。

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) 大学における学生指導のあり方に関する研究

(2) 大学通信教育の展望に関する研究

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

青森市におけるスペシャルオリンピックスの活動

氏名 中村 和彦 (NAKAMURA Kazuhiko)

所属 経営学部 経営学科

職名 准教授

生年月日 1972年1月30日

## [履歴]

### [学歴]

1996年3月 明治学院大学経済学部商学科卒業

1999年3月 明治学院大学大学院経済学研究科経営学専攻博士前期課程修了

2003年3月 名古屋学院大学大学院経済経営研究科経営政策専攻博士後期課程 単位取得満期退学

### [学位]

経営学修士

### [職歴]

2001年4月～2003年3月 名古屋学院大学大学院 ティーチングアシスタント

2003年4月～2006年3月 名古屋学院大学 商学部 非常勤講師 (「マーケティング論」「マーケティング・マネジメント論」「商品政策論」「ブランド戦略論」「ブランド論」を担当)

2006年4月～2010年3月 ノースアジア大学 (旧秋田経済法科大学) 経済学部 専任講師 (「流通システム論Ⅰ・Ⅱ」「マーケティング・マネジメント論」「マーケティング・リサーチ論」「販売士受験講座」「ゼミナール」を担当)

同大学 法学部 兼任講師 (「観光産業論」を担当)

同法人 秋田栄養短期大学 兼任講師 (「消費経済論」を担当)

2010年4月 青森大学経営学部経営学科講師

2012年4月 青森大学経営学部経営学科准教授

### [所属学会]

日本商業学会、日本経営学会、日本消費者教育学会、経営哲学学会、アジア市場経済学会

## [教育活動]

### [担当科目] (平成26年度)

マーケティング論Ⅰ、マーケティング論Ⅱ、流通経営論Ⅰ、流通経営論Ⅱ、スポーツ・マーケティング論、3年専門ゼミナール、4年専門ゼミナール

2009年卒業研究：9名

2012年卒業研究：11名

2013年卒業研究：6名

2014年卒業研究：10人

### [ゼミ指導]

平成25年度：2年、3年、4年で32名

平成26年度：3年、4年で19名

## [教育指導に関する特記事項]

1, 講義の主教材(テキスト)を補完するべく、毎回、統計的資料やパワーポイントによるスライド図など副教材を作成・配布して学生の興味を誘っている。



また時には、より臨場感を高めるために、DVD（理論を裏づけるケース等）を該当する箇所と関連づけて使用に供させて貰っている。

2,販売士資格試験支援のため、講義とは別に、夏の補講を行った。

#### [研究活動]

##### [研究テーマ]

- (1) ブランド・マネジメント
- (2) 流通経営
- (3) 消費者問題
- (4) 蒐集消費

#### [著書、論文。総説]

「日産ブランド戦略に関する一考察」『経済論集』（秋田経済法科大学総合研究センター経済研究所）第2号、pp.73-95. 2007年3月

「ネーミングライツに関する一考察」『経済論集』（ノースアジア大学総合研究センター経済研究所）第5号、pp.1-15. 2008年10月

「消費者庁と消費者問題」『経済論集』（ノースアジア大学総合研究センター経済研究所）第7号、pp.15-28. 2009年12月

「地域ブランドと伝統野菜」『国際観光研究』（ノースアジア大学総合研究センター国際観光研究所）第3号、pp.115-126. 2009年12月

「小売業の福袋と消費者購買行動」『研究紀要』（青森大学・青森短期大学 学術研究会）第34巻第2号、pp.47-68. 2011年2月

「レコード・レーベルの変遷①～レーベルのブランド価値とM&Aとを中心として～」『研究紀要』（青森大学・青森短期大学 学術研究会）第34巻第3号、pp.179-216.2012年2月

「レコード・レーベルの変遷②」『研究紀要』（青森大学・青森短期大学 学術研究会）第34巻第3号、pp.37-140.2012年7月

『未来を切り拓くビジネス・チャレンジ・ノート』（青森県高等学校教育研究会商業部会・青森県高等学校商業教育研究会編）、第1章第2節、第3章第2節を担当（執筆・監修）  
2013年3月

「青森ブランド牛統一」（朝日新聞 2014年10月掲載）

「食品偽装に関する一考察」『研究紀要』（青森大学学術研究会）第37巻第3号、pp.31-48.2014年2月

#### [その他の活動]

##### [公開講座、講演、セミナー]

2013年12月 「観光行政のイノベーション～台湾と青森市の観光振興のために～（中国文化大学・青森公立大学・青森大学）」パネリスト（於：ブラックボックス）

2014年2月 「ブランド・マネジメント」公開講座（青森商業高校）

2014年7月 大学見学会 模擬授業（青森大学）

2014年7月 「ブランド」高大連携公開講座（県内4つの商業高校）

2014年11月 高大連携推進協議会（於：アップルパレス青森）

2014年12月 高大連携「県キュ発表大会」（於：青森商業高校）

2015年2月 青森刑務所制作 津軽塗印鑑 販売促進に関する公開プレゼンテーション

2015年3月「小売業の福袋について」公開講座（青森中央高校）

【学内各種委員】（平成26年度）

高大連携推進委員、教学タスクフォース委員、自己点検評価委員、将来計画委員、教務委員、学術研究会学生研究発表委員、留学生生活支援班、



氏名 沼田 郷 (NUMATA Satoshi)

所属 経営学部

職名 准教授

生年月日 1973 年 6 月 14 日

【履歴】

【学歴】

1997 年 3 月 駒澤大学経済学部卒業

1999 年 3 月 駒澤大学 大学院経済学研究科 修士課程 修了

2002 年 3 月 駒澤大学 大学院経済学研究科 博士課程 満期退学

【学位】

経済学修士

【職歴】

2001 年 4 月 (2003 年 3 月) 日本大学経済学部 経済科学研究所 非常勤研究員

2004 年 4 月～ 学校法人嘉悦学園 嘉悦大学非常勤講師

2006 年 4 月～ 駒澤大学経済学部非常勤講師

2009 年 4 月～ 学校法人青森山田学園 青森大学経営学部 専任講師

2009 年 4 月 (2011 年 3 月) 日本大学経経済学部 経済科学研究所 非常勤研究員

2012 年 4 月～ 学校法人青森山田学園 青森大学経営学部 准教授

2012 年 10 月 (2013 年 2 月) 一般財団法人 青森地域社会研究所客員研究員

【所属学会】

日本国際経済学会、多国籍企業学会、アジア市場経済学会

【教育活動】

【担当科目】

専門演習 (3、4 年)、国際経済論 (I、II)、企業論 (I、II)

基礎演習、人間と文化、社会と環境 (コーディネーター)

【教育指導に関する特記事項】

2014 年 1 月 平成 25 年度 青森大学地域貢献賞 優秀賞受賞

2014 年 12 月 小さな親切運動 「実行賞」受賞

2015 年 1 月 青森大学地域貢献賞 「奨励賞」受賞 沼田チーム

「中心商店街にぎわい創出事業」

【研究活動】

【研究テーマ】

(1) 東アジア地域における国際分業の課題

(2) 日本および台湾光学産業の発展過程に関する考察

【著書、論文、総説】

1. (共著) 矢部洋三編『日本デジタルカメラ産業の生成と発展』日本経済評論社、2015 年第 1 章、第 5 章。

2. (共著) 「日系メーカーの海外生産と台湾光学産業の形成」矢部洋三、木暮雅夫編『日本カメラ産業の変貌とダイナミズム』日本評論社、2006 年。

3. (論文) 「東アジア地域における貿易と直接投資」『アジア市場経済学会年報』アジア市場経済学会、第 11 号、2008 年。

4. (論文) 「カメラの技術革新」青森大学・青森短期大学学術研究会『研究紀要』第 33 巻 第 3 号、2011 年。

5. (論文) 「台湾デジタル・スチル・カメラ産業の台頭」日本大学経済学部経済科学研究



所『紀要』第 42 号, 2012 年 3 月。

6. (論文)「台湾企業の台頭と日本企業の役割ーデジタル・スチル・カメラの受託生産を事例として」『研究紀要』青森大学学術研究会、第 36 卷 第 1 号、2013 年 7 月。

7. (論文)「受託製造における台湾企業の台頭」『研究紀要』青森大学学術研究会、第 36 卷 第 3 号、2014 年。

#### [学会発表]

1. 2006 年 11 月 11 日 国際経済研究会 東京部会 (於明治大学)

報告 東アジア地域における工業化と国際分業

2. 2007 年 7 月 1 日 アジア市場経済学会 全国大会 (於神奈川大学)

報告 東アジア地域における貿易と直接投資

3. 2008 年 6 月 29 日 多国籍企業学会全国大会 (於明治大学)

報告 東アジア地域における国際分業の進展と課題

4. 2009 年 7 月 15 日 青森大学 春季教員研究発表大会 (於青森大学)

報告 東アジア地域における国際分業

5. 2011 年 11 月 26 日 多国籍企業学会西部部会例会 (於阪南大学)

報告 台湾デジタル・スチル・カメラ産業の現状と課題

6. 2012 年 7 月 1 日 アジア市場経済学会全国大会 (於近畿大学)

報告 デジタル・スチル・カメラ生産における新潮流

#### [研究費の取得状況]

日本大学経済学部経済科学研究所研究助成 (共同研究)

2001 年 4 月～2003 年 3 月まで

日本大学経済学部経済科学研究所研究助成 (共同研究)

2009 年 4 月～2011 年 4 月まで

日本学術振興会 科学研究費 (課題番号: 26380434) 平成 26 年度 基盤研究(C)

研究代表 テーマ: 日本と台湾における光学産業の成長と連鎖

2014 年 4 月～2017 年 3 月まで

#### [その他の活動]

2008 年 12 月 6、7 日 第 55 回 日本学生経済ゼミナール 福岡大学大会 助言講師。

分科会番号 2-6 テーマ 現在の日中貿易

2012 年 4 月～ 東日本大震災による被災高校支援活動 (代表顧問)

2012 年 9 月 青森大学学園祭パネル展示

東日本大震災による被災地の現状 (現地調査から見えてきたもの)

2012 年 9 月～2013 年 2 月 にぎわい創出事業 (青森市商店街活性化事業) に沼田ゼミとし

て参加。ヒアリング調査などを中心に報告書を作成。

2013 年 2 月 にぎわい創出事業、調査研究報告会実施 (青森国際ホテル)。

2013 年 9 月 青森大学学園祭パネル展示

中心商店街にぎわい創出事業の成果と今後の課題

2013 年 11 月 沼田ゼミデザインによる「のぼり」完成 (青森・夜店通り商店街)

2013 年 12 月 夜店通り商店街のホームページに「のぼりに込めた想い」を掲載

[http://www.nebuta.co.jp/yomise/shop/aodai\\_ivent.html](http://www.nebuta.co.jp/yomise/shop/aodai_ivent.html)

2014 年 1 月 平成 25 年度 青森大学地域貢献賞 優秀賞受賞

「中心商店街にぎわい創出事業」

2014 年 1 月 東奥日報 朝刊 14 面 「商店街の活性化を応援したい」 沼田チーム特集



(学生への取材をもとにした記事掲載)

- 2014年2月 商店街新聞 「どさあ?yOMISE さ」発行(創刊号)
- 2014年3月 青森大学・青森市 包括的連携協定締結記念 第1回青森地域フォーラム  
青森の今と未来を考える。活動報告:「中心商店街にぎわい創出」
- 2014年3月 商店街新聞 「どさあ?yOMISE さ」発行(第2号)
- 2014年4月 商店街新聞 「どさあ?yOMISE さ」発行(第3号)
- 2014年7月 商店街新聞 「どさあ?yOMISE さ」発行(第4号)
- 2014年9月20日 東奥日報朝刊 「岩手・高田高校に青大生が義援金」  
「東日本大震災による被災高校支援活動として」
- 2014年9月23日 大学生観光まちづくりコンテスト(本選出場) 於:青森県立美術館  
提案プラン「青い国からのおくりものーあおもりヒバを使ったおもちゃづくり」
- 2014年10月 青森大学学園際パネル展示 沼田ゼミ  
「青い国からの贈りものーあおもりヒバを使ったおもちゃづくり」
- 2014年10月21日 ASEM主催 観光を学ぶタイの大学生と青森大学学生との交流会  
参加・発表 「青い国からのおくりものーあおもりヒバを使ったおもちゃづくり」
- 2014年12月2日 小さな親切運動実行賞受賞  
沼田チーム「東日本大震災による被災高校支援活動」
- 2014年12月10日 まちなかキャンパス講師  
「中心商店街活性化に取り組んでいる本学学生の軌跡」
- [学内各種委員]  
教学タスクフォース、学生募集委員会ほか
- [学外各種委員]  
平成21年9月1日～平成22年3月31日まで  
独立行政法人 雇用・能力開発機構青森センター  
民間教育訓練期間等による離転職者訓練の実施に関わる企画書評価委員会委員  
平成22年3月1日～平成23年3月31日まで  
独立行政法人 雇用・能力開発機構青森センター  
委託訓練の委託先及び訓練科の選定に係る委託訓練委員会委員  
平成22年11月15日～平成24年11月14日まで  
青森市公共事業再評価審議委員会委員  
平成24年11月14日～平成26年11月13日まで  
青森市社会資本整備評価委員会委員
- [その他]  
2010年6月 青森大学オープンカレッジ講師(テーマ:東アジア経済の光と影)  
2011年3月9日〈寄稿〉東奥日報 夕刊5面 教育に新聞を 実践者リレーエッセー執筆。  
2011年3月～〈連載〉東奥日報 ニュースカアップ(隔週連載中)  
2013年4月27日 ATV 青森テレビ「教えて知事」に出演(青森県知事と対談)  
2013年11月 青森大学オープンカレッジ講師(テーマ:日本企業の技術追跡過程)  
2013年12月21日 青森大学冬季教職員研修会 地域貢献活動に関する事例報告「中心商店街にぎわい創出」  
平成26年10月1日～平成28年9月30日まで 財務省 東北財務局財務行政モニター

氏名 堀籠 崇 (HORIGOME Takashi)

所属 経営学部

職種 准教授

生年月日 1976年11月14日

[履 歴]

[学 歴]

2001年3月 立命館大学経済学部経済学科 卒業

2004年3月 東北大学大学院経済学研究科経営学専攻博士前期課程 修了

2009年3月 東北大学大学院経済学研究科経営学専攻博士後期課程 修了

[学 位]

博士(経営学) 東北大学

[職 歴]

2009年4月 東北大学大学院経済学研究科 博士研究員(2014年3月まで)

2011年9月 東北大学大学院経済学研究科研究戦略推進センター

プロジェクト研究員(2012年3月まで)

2013年4月 学校法人北杜学園法人本部事業推進部 職員(2014年3月まで)

2014年4月 青森大学経営学部 准教授(現在に至る)

[受 賞]

2009年3月 財団法人経和会記念財団 平成20年度経和会記念財団優秀論文賞

[所属学会]

医療経済学会 日本医療経済学会 日本経営学会 経営学史学会 国際経営文化学会 地域経営学会

[教育活動]

[担当科目]

経営組織論Ⅰ・Ⅱ 経営技術論Ⅰ・Ⅱ 経営基礎演習 科学方法論演習 プロジェクト演習Ⅰ ICTマネジメントとビジネスシステム 地域貢献プランニング

[卒業研究指導]

該当なし

[ゼミ指導]

2014年度 基礎演習(17名)

地域貢献基礎演習(21名)

科学方法論演習(14名)

2015年度 経営基礎演習(19名)

科学方法論演習(13名)

[教育指導に関する特記事項]

1・2年生を主体としたゼミにおいては、3・4年生で履修する、専門ゼミへの円滑な接続



のために、基礎的な研究・学習能力の修得を目指している。したがって、データ収集・文献検索方法、文書作成方法、文章読解についてのレクチャーを中心とした系統的学習と、学生のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の育成を視野に入れた PBL との、バランスに留意した教育指導をおこなっている。

#### [研究活動]

##### [研究テーマ]

- 1.医療法人立病院におけるガバナンスと意思決定に関する研究
- 2.日本型医療システム形成の歴史的展開に関する研究

##### [著書、論文、総説]

1. (単著)「医療法人制度の法制度的側面に関する史的考察」『日本医療経済学会会報』日本医療経済学会, 25 巻 1 号, 2006 年 2 月, pp.1-36.
2. (単著)「GHQ による占領期医療制度改革に関する史的考察-医学教育制度・病院管理制度を中心として-」『医療経済研究』医療経済学会, 20 巻 1 号, 2008 年 6 月, pp.35-48.
3. (単著)「占領期医療システム形成における GHQ の方針と日本の選択」『日本医療経済学会会報』日本医療経済学会, 28 巻 1 号, 2009 年 8 月, pp.1-25.
4. (単著)「占領期日本の医療政策過程における一考察-医薬分業をめぐる GHQ、日本医師会、厚生省の影響力関係を中心に-」『研究年報経済学』東北大学経済学会, 70 巻 3 号, 2009 年 10 月, pp.37-58.
5. (単著)「医療制度改革と医療法人ガバナンス」『日本経営学会第 84 回大会報告要旨集』, 石巻専修大学, 2010 年 9 月, pp.370-373.
6. (単著)「実地修練 (インターン) 制度に関する研究-新医師臨床研修制度に与える示唆」『医療と社会』医療科学研究所, 20 巻 3 号, 2010 年 10 月, pp.239-250.
7. (単著)「アメリカ合衆国における医療アクセス環境」未刊行, 東北大学大学院経済学研究科ポストディレギュレーション期市場経済システム研究者派遣事業プログラム報告書, 2011 年 5 月, 5p.
8. (単著)「厚生白書に見る医療専門職に求められる倫理と行政的対応の変遷について-1956 年~2001 年-」『TERG Discussion Paper』東北大学経済学研究科, No.283, 2012 年 6 月, 20p.
9. (単著)「病院を経営する医療法人の財務分析」『経営学論集 アジア企業の経営から学ぶ』日本経営学会, 第 83 集, 2013 年 9 月, pp.1-13[15].
10. (単著)「日本における医療専門職の倫理-厚生白書をてがかりに-」『研究年報経済学』東北大学経済学会, 2014 年 3 月, pp.133-149.

##### [学会発表]

1. (単独)「医療法人制度の形成過程」日本医療経済学会第 13 回研究例会, ぱるるプラザ 京都, 2006 年 2 月.
2. (単独)「戦後日本の医療制度形成過程に関する史的考察-GHQ による医療制度改革」医療経済学会第 2 回研究大会, 学習院大学, 2007 年 7 月.
3. (単独)「占領期日本の医療システム形成における政治的力関係に関する考察-戦時・戦後の連続性と断絶性の視点から-」社会経済史学会第 11 回東北部会, 東北大学, 2007 年 11 月.
4. (単独)「戦後日本の医療システム形成における政治的力関係に関する考察-GHQ、厚生省、日本医師会および開業医の利害を中心に-」日本医療経済学会第 32 回研究大会, 東京



都総評会館，2008年9月。

5. (単独)「医療制度改革と医療法人ガバナンス」日本経営学会第84回研究大会，石巻専修大学，2010年9月。

6. (単独)「新医師臨床研修制度への提言-インターン制度の経験をどう活かすか」日本医療経済学会第34回研究大会，東京都全労連会館，2010年9月。

7. (単独)「東北6県医療法人決算書分析」日本経営学会東北部会，東北学院大学サテライトステーション，2012年3月。

8. (単独)「病院を経営する医療法人の財務分析」日本経営学会第86回大会，日本大学，2012年9月。

9. (単独)「青森県における医療の課題と可能性」(基調講演)国際経営文化学会第19回大会，千葉大学，2014年10月。

10. (堀籠崇、岩淵護)「企業におけるデータ開放の意義と企業価値への循環について」あおもりオープンデータ活用推進フォーラム2015，青森県ねぶたの家ワ・ラッセ，2015年1月。

11. (単独)「企業におけるデータ開放事例から見る医療データ公開の課題と展望」日本経営学会東北部会，新潟大学，2015年3月。

#### [その他の活動]

##### [研究費の取得状況]

1. (研究代表者)「医療法人のガバナンスに関する研究-病院ガバナンス論の確立のために」文部科学省科学研究費，若手研究B(研究課題番号23730339)，助成額170万円(直接経費)，2011-2012年度。

2. (研究代表者)「医療法人病院のガバナンスと意思決定」文部科学省科学研究費，若手研究B(研究課題番号25780225)，助成額280万円(直接経費)，2013-2015年度。

3. (研究代表者)「企業におけるデータ開放の意義と企業価値への循環について」(共同研究者；岩淵護【青森大学】)青森県商工労働部新産業創造課，委託金額29万円，2014年度。

4. (研究分担者)「取引費用モデルを活用したクラスターネットワーク形成と地域活性化に関する実証的研究」(研究代表者；岩淵護【青森大学】)文部科学省科学研究費，基盤研究C(研究課題番号15K03671)，助成額100万円(直接経費)，2015-2018年度。

##### [公開講座、講演、セミナー]

##### [学内各種委員]

2014年度 学長補佐室、教務委員会

2015年度 学長補佐室、全学教務委員会、学部教務委員会(学部教務委員長)、FD委員会、青森大学附属総合研究所(所員)

##### [学外各種委員]

地域経営学会監事



氏名 渡部 あさみ (WATANABE, Asami)

所属 経営学部

職種 専任講師

生年月日

[履 歴]

[学 歴]

2006年3月 高崎市立高崎経済大学経済学部経営学科卒業

2008年3月 高崎市立高崎経済大学大学院経済・経営学科

現代経営ビジネス専攻博士前期課程修了

2014年3月 明治大学大学院経営学研究科経営学専攻博士後期課程修了

[学 位]

2014年3月 博士(経営学) 明治大学大学院

[職 歴]

2006年4月1日～ 2008年3月25日 高崎経済大学経済学部 TA

2008年4月1日～ 2010年3月31日 明治大学大学院経営学研究科 RA

2010年4月1日～ 2012年3月31日 明治大学経営学部助手

2012年4月1日～ 2012年4月30日 明治大学大学院経営学研究科 RA

2012年5月1日～ 2013年3月31日 明治大学経営学部助手

2013年4月1日～ 2013年8月31日 明治大学大学院経営学研究科 教育補助講師

2013年9月1日～ 現在に至る 青森大学経営学部 専任講師

2014年9月1日～ 2015年3月31日 青森公立大学非常勤講師

[受 賞]

特記事項なし

[所属学会]

日本経営学会、社会政策学会、労務理論学会、日本労務学会、Asia-Pacific Reseachers in Organisation Studies, European Froup for Organization Studies、International Federation of Scholarly Associations of Management

[教育活動]

[担当科目]

経営管理論Ⅰ・Ⅱ、人事労務管理論Ⅰ・Ⅱ、経営基礎演習、社会と環境(分担)、社会政策論(2014年度)、科学方法論演習、文章の理解と表現(2014年度)、基礎演習(2014年度)、地域貢献基礎演習(2014年度)

[卒業研究指導]

[ゼミ指導]

経営基礎演習で18名を指導

科学方法論演習で12名を指導

[教育指導に関する特記事項]

[研究活動]



## [研究テーマ]

先進諸国における長時間労働問題と労働時間管理

### [著書、論文、総説]

#### 学術論文

1. 渡部あさみ、『『サービス残業』の構造に関する一考察』、『経営学研究論集』、明治大学大学院、第30号、pp.65-84、2009。
2. 渡部あさみ「長時間労働と人事労務管理」、『Informatics』、明治大学情報基盤本部、Vol.2, No.2、pp.81-92、2009。
3. 渡部あさみ「所定外労働時間削減における労働組合の役割-A社の事例から-」、『労務理論学会学会誌』、晃洋書房、第19号、pp.165-177、2010。
4. 渡部あさみ「Long Working Hours in Japan-The Case of Firm A-」、『Meiji Business Review』、The Institute of Business Management Meiji University、Vol.58 No.1、pp.133-149、2010。
5. 渡部あさみ「長時間労働をめぐる議論-ホワイトカラー労働を中心に-」、『経営学研究論集』明治大学大学院、第34号、pp.77-94、2011。
6. 渡部あさみ「長時間労働と雇用管理の変化-非正規雇用労働者の増大と正規雇用労働者の長時間労働-」、『社会政策学会学会誌』、社会政策学会、第4号第2号、pp.94-104、2012。
7. 渡部あさみ「Attempts to Reduce Working Time in the Japanese Workplace」、『Business Review』、The Institute of Business Management Meiji University、Vol.60 No.4、pp.175-191、2013。
8. 渡部あさみ「東北地方における労働力確保へ向けた人事労務管理に関する一考察-A県M銀行における「働きやすい職場」づくりへ向けた取組を手掛かりに-」青森大学学術研究会『研究紀要』第36巻第3号(通巻118号)、pp.195-218、2014。

#### 解説

1. 担当項目は、「時間外労働(p.340)」、「スーパーフレックスタイム制(p.432)」、「非正規労働センター(p.787)⇒『連合非正規労働センター(p.948)』」、「不払い残業相談ダイヤル(p.833)」、「労働時間みなし制(pp.966-997)」、「労働時間短縮促進臨時措置法改正(2001年)(p.966)⇒『時短促進法改正』(p.345)」、「ネットカフェ難民(p.753)」、「変形労働時間制(p.833)」、「リーン生産方式(p.933)」の9項目を担当。大原社会問題研究所編(2011)『社会労働大辞典』、旬報社。
2. 「規制緩和と労働時間」労務理論学会編『経営労務辞典』、晃洋書房、第5章3項、pp.104-105、2011。

#### [学会発表]

1. 渡部あさみ『『サービス残業』の実態と構造』  
労務理論学会第18回全国大会、金沢大学、2008年6月。
2. 渡部あさみ「長時間労働とその発生要因について」  
社会政策学会第117回秋季大会、岩手大学、2008年10月。
3. 渡部あさみ「長時間労働と雇用管理-新日本的経営以降の雇用管理に着目して-」  
第23回社団法人東京都信用金庫協会金融・経済研究会、信用金庫会館、2009年6月。
4. 渡部あさみ「長時間労働に関する一考察」  
労務理論学会第19回全国大会、駒澤大学、2009年7月。
5. 渡部あさみ「人事労務管理のフレキシブル化と長時間労働-新日本的経営以後の人事労務管理の変化からの一考察-」日本経営学会第83回大会、九州産業大学、2009年9月。
6. 渡部あさみ「長時間労働をめぐる論議」



労務理論学会第20回全国大会、龍谷大学、2010年6月。

7. 渡部あさみ「雇用管理の変化と長時間労働・非正規雇用労働者の増大と正規雇用労働者の長時間労働」社会政策学会第121回秋季大会、愛媛大学、2010年10月。

8. Watanabe, Asami “Case Study on How to Reduce Non-scheduled Hours -Discussion about Overtime Work in Japan-”『The 27th European Group for Organization Studies』, Gothenburg University (Gothenburg, Sweden), July, 2011.

9. 渡部あさみ「人事労務のフレキシビリティと長時間労働問題」労務理論学会第22回全国大会、阪南大学、2012年6月。

10. Watanabe, Asami “Working Time Reduction in Japanese Work Places: Building upon Case Studies on How to Reduce Non-Schedule Hours” 『The 15th Asia-Pacific Researchers in Organisation Studies Conference』, Hitotsubashi University (Tokyo, Japan), February, 2013.

11. Watanabe, Asami “The Changing Labour Flexibility in Japanese Workplaces” 『The 12th International Federation of Scholarly Associations of Management World Congress in Tokyo』, Meiji University (Tokyo, Japan), September, 2014.

#### [その他の活動]

##### 研究会・ワークショップ

1. 渡部あさみ「長時間労働と雇用管理-新日本的経営以降の雇用管理に着目して-」法政大学大原社会問題研究所第43回現代労使関係・労働組合研究会、法政大学、2009年5月。

2. 渡部あさみ「長時間労働と雇用管理-新日本的経営以降の雇用管理に着目して-」第23回社団法人東京都信用金庫協会金融・経済研究会、信用金庫会館、2009年6月。

3. 渡部あさみ「長時間労働問題と人事労務管理-運輸系大企業A社の事例を中心に-」、21世紀の労働と社会研究会（現：雇用・社会保障の連携部会(社会政策学会関連部会)）明治大学、2009年10月。

4. Watanabe, Asami “The Factor of Long Working Hours in Japan: A Case of A firm” 『21st Century Business Issues in North America, Asia and Oceania』, Meiji University (Tokyo, Japan), October, 2009.

5. 渡部あさみ「1990年代以降における正規ホワイトカラー労働者の長時間労働問題に関する研究—日本における人事労務のフレキシビリティと長時間労働—」労働社会学会第25期第1回研究例会、専修大学、2013年2月。

5. Watanabe, Asami “Some Comments on Labour Flexibility and Overwork in Japan” 『Work, Employment and Human Resource Management: Observations from Japan and the UK』, Lancaster University (Lancaster, UK), February, 2012. 『Cardiff-Meiji Doctoral Workshop』, Cardiff University (Cardiff, UK), March, 2012.

6. 渡部あさみ「正規ホワイトカラー労働者の長時間労働と人事労務管理のフレキシビリティ」日本経営学会東北部会、大鰐温泉（青森県）、2013年11月。

7. 渡部あさみ「日本における長時間労働問題と労働時間管理」ビジネス・イノベーション研究所第57回研究会・所員会議、2014年5月。

8. 渡部あさみ「日本企業におけるグローバル枠組み協定の運用実態と課題—ミズノ労使の取り組みを手掛かりに—」社会政策学会雇用・社会保障の連携部会研究会「日本企業における変化の諸相」、山形大学、2014年11月。

#### [研究費の取得状況]

1. (研究代表者)「先進諸国におけるホワイトカラー労働者の労働時間管理」文部科学省科学研究費、若手研究 B(研究課題番号 26780212)研究費総額 299 万円、2014 年度～2016 年度。

2. (研究分担者)「日本企業の市民社会化の研究—経営の共同体モデルから市民社会モデルへ」文部科学省科学研究費、基盤研究 C(研究課題番号 25380459) 研究費総額 481 万円、研究代表者：石川公彦(明治大学)、2013 年度～2015 年度。

[公開講座、講演、セミナー]

[学内各種委員]

入試選抜委員会(2013 年度から現在)、大学案内作成委員会(2013～2014 年度)



氏 名 松本 大吾 (MATSUMOTO Daigo)

所 属 経営学部

職 種 専任講師

生年月日 1980年4月21日

[履 歴]

[学 歴]

2003年3月 青森公立大学経営経済学部経営経済学科 卒業

2005年3月 青森公立大学大学院経営経済学研究科修士課程 修了

2009年3月 青森公立大学大学院経営経済学研究科博士前期課程 修了

2015年3月 青森公立大学大学院経営経済学研究科博士後期課程 単位取得退学

[学 位]

修士(経営経済学) 青森公立大学

[職 歴]

2005年4月 株式会社ユニバース入社(～2006年1月)

2012年12月 青森公立大学臨時職員(科研費研究補助)(～2014年3月)

2014年9月 青森大学経営学部 専任講師(現在に至る)

[受 賞]

特記事項なし

[所属学会]

日本会計研究学会、日本簿記学会、日本会計教育学会、地域経営学会、日本経営学会

[教育活動]

[担当科目]

2015年度：会計学基礎論、会計学(上級)、管理会計論Ⅰ・Ⅱ、経営分析論、簿記基礎総合演習Ⅰ、経営学演習、科学方法論演習、プロジェクト演習

[卒業研究指導]

[ゼミ指導]

2015年度：経営基礎演習(1年ゼミ)18名、科学方法論演習(2年ゼミ)13名

[教育指導に関する特記事項]

日本商工会議所簿記検定の取得を目指す学生に対して、個別に履修科目・受験時期の相談に乗ったり、指導したりしている。また、試験前には、正規の授業外で補習を行っている。

[研究活動]

[研究テーマ]

1. 多国籍企業のタックス・マネジメント
2. 経営分析における公的経済統計の活用

[著書、論文、総説]

1. (単著)「現代企業経営におけるタックス・マネジメントの課題－わが国企業の国際的活動における租税とタックス・マネジメント－」『経営経済学研究』青森公立大学, 16巻2号, 2011年3月, pp.47-57.
2. (単著)「多国籍企業のタックス・マネジメント－その諸機能と管理体系－」『経営経済学研究』青森公立大学, 17巻1号, 2011年9月, pp.17-32.
3. (単著)「多国籍企業の形成要因と発展過程－管理会計的租税管理を志向して－」『多国籍企業統計作成の意義と試み－事業所・企業統計の匿名化マイクロデータの作成実験と社会経済変動過程の解析への応用－』統計数理研究所共同研究レポート 282, 2012年3月, pp.29-45.
4. (単著)「多国籍企業の会計処理の問題点」『複雑な企業構造と産業分類の多様性による計算機による企業名特定化の問題』統計数理研究所共同研究レポート 303, 2013年3月, pp.27-42.
5. (単著)「公的経済統計を活用した内国法人の経営分析試論－多国籍企業集団中の飲食サービス業の租税戦略を中心に－」『匿名化手法と企業分類格付け・産業構造の変容』統計数理研究所共同研究レポート 325, 2014年3月, pp.3-39.
6. (単著)「会計学教育の事例研究における公的経済統計の活用－多国籍企業集団の一環としての内国法人を通じた租税戦略分析への活用－」『会計教育研究』日本会計教育学会, 2号, 2014年8月, pp.5-13.

[学会発表]

1. 松本大吾「グローバル・タックス・マネジメントの意義と課題」日本会計研究学会第78回東北部会, 東北学院大学, 2010年5月.
2. 松本大吾「グローバル・タックス・マネジメントの諸機能と管理体系－理論構築の試み－」日本会計研究学会第70回全国大会, 久留米大学, 2011年9月.
3. 松本大吾「経営分析における公的経済統計の活用試論－多国籍企業集団の内国法人を通じた租税戦略分析への活用－」日本会計研究学会第73回全国大会, 横浜国立大学, 2014年9月.
4. 松本大吾・古隅弘樹・松田芳郎「多国籍企業の分類基準に関して」日本分類学会第33回全国大会, 帝京大学, 2015年3月.

[その他の活動]

日本学術会議公開シンポジウム「学士課程教育における経営学分野の参照基準」パネリスト, 日本学術会議講堂, 2012年6月.

[公開講座、講演、セミナー]

[学内各種委員]

2015年度：入試選抜委員、学生募集委員（オープンキャンパス班・入学案内班）、高大連携、学長補佐室